

# 第 11 回群馬県小学校生活科・総合的な学習研究協議会

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善  
～学びを深める交流活動の工夫～

生活科・総合的な学習の時間  
— 地域の特色を生かした単元構成の工夫 —



令和 3 年 11 月 26 日(金)  
高崎市立吉井小学校

# 目次

はじめに

I	研究の概要	1～3
1	研究主題・副主題	
2	主題設定の理由	
3	研究のねらい	
4	研究の内容	
5	研究の組織	
6	研究の経過・計画(令和2年度～3年度)	
II	研究の実践	4～21
1	生活科・総合的な学習の時間 単元配列表	
2	生活科全体計画・単元計画	
(1)	生活科全体計画	
(2)	生活科単元計画(1学年)	
(3)	生活科単元計画(2学年)	
3	総合的な学習の時間全体計画・単元計画	
(1)	総合的な学習の時間全体計画	
(2)	総合的な学習の時間単元計画(3学年)	
(3)	総合的な学習の時間単元計画(4学年)	
(4)	総合的な学習の時間単元計画(5学年)	
(5)	総合的な学習の時間単元計画(6学年)	
4	実践事例	
(1)	1学年実践事例	
(2)	2学年実践事例	
(3)	3学年実践事例	
(4)	4学年実践事例	
(5)	5学年実践事例	
(6)	6学年実践事例	
III	指導案	22～28
IV	研究のまとめ	29
	研究の成果と課題	

## はじめに

第11回群馬県小学校生活科・総合的な学習研究協議会が、この高崎市で開催できますことを心より感謝申し上げます。本来であれば、県内各地より多数の先生方にご参加いただきたかったところですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者を限定しての開催となりました。この研究の詳細につきましては、今後、群馬県小学校中学校教育研究会生活科・総合的な学習部会のホームページに掲載いたしますのでご覧いただきたいと思います。

平成29年3月に告示された学習指導要領では、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、現代社会が急速に変化しており、予測が困難な時代になってきていることを踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることの重要性が示されています。

生活科では、具体的な活動を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力の育成を目標としています。また、総合的な学習の時間では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指しています。

このような中、本校では、令和元年度より校内研修の研修主題を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」とし、基礎学習やテーマ研修、一人一授業の実践を通して、研究に取り組んできました。そして、今年度は「学びを深める交流活動の工夫」を副主題に、課題解決の場におけるグループ活動やICTの活用等を通して、児童の発達段階に応じた交流活動を工夫してきました。特に、GIGAスクール構想の下で整備された一人一台端末に関しては、情報収集・整理分析・まとめ表現等の探究的な学習過程における積極的な活用により、児童の学習活動が一層充実しました。また、生活科・総合的な学習の時間では、地域の特色を生かした単元を構成し、各単元において、児童の思いや願いを生かした単元課題を設定するとともに、スパイラル的な活動を繰り返すことで、気付いたことを基に考え、新たに生み出した気づきを関係付けながら、児童の思いや願いを実現することができています。

最後に、この研究を進めるにあたり、たくさんのご指導とご助言をいただきました群馬県教育委員会西部教育事務所指導主事の岡部隼人先生、高崎市教育委員会指導主事の石原敬久先生・黛 哲雄先生に心より感謝申し上げます。そして、研究発表会に向けてご協力いただいた群馬県小学校生活科・総合的な学習部会の皆様にも心より感謝申し上げます。

令和3年11月26日

高崎市立吉井小学校長 武井 郁也

## I 研究の概要

### 1 研究主題 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ～学びを深める交流活動の工夫～

生活科・総合的な学習の時間  
ー地域の特色を生かした単元構成の工夫ー

## 2 主題設定の理由

### (1) 学校教育目標から

本校では、「高い知性、豊かな特性、たくましい体力を備え、夢や希望をもち、社会に主体的に貢献できる人間の基礎を培う」ことを学校教育目標として掲げている。指導の重点の一つとして「ぐんぐん学力アッププラン（知）」を挙げ、児童の対話・発表・説明を重視した「アウトプット型の授業づくり」を進めてきた。今年度はそれに加え、学びが深まるような交流活動を工夫することを重点において、授業改善を行っている。

また、学校目標の具現化を図るため「地元の期待や願いを支えに、地域の未来を築く『吉井っ子』を育む学校」を目指す学校像の一つに挙げている。これを実現するためにも、1年生の生活科から6年生の総合的な学習の時間まで地域の特色を生かした単元の構成を工夫していく必要があると考える。

### (2) 地域の実態から

本校は、高崎市の南玄関吉井ICの北西に位置し、旧吉井町の中心地区にある。学校周辺には、吉井駅、山種記念図書館、吉井支所、産業文化会館、消防署などたくさんの公共施設、個人商店、大型スーパーマーケットなどがあり、地域資源に恵まれている。また、校区には、日本三大古碑の一つであり、ユネスコ世界記憶遺産にも登録されている多胡碑を始め、移築現存されている吉井藩陣屋の表門や春日社跡などの文化財も学校周辺にある。

地域の人々は、読み聞かせボランティアが毎月読み聞かせをしてくれたり、生活科や総合的な学習の時間における野菜づくりの手伝いをしてくれたりと協力的である。また、2年生の町たんけんでは地域の商店や郵便局、消防署等に児童が訪問する依頼をすると、快く引き受けてくれ、学校教育に対する理解もある。

### (3) 児童の実態から

明るく素直な児童が多く、体験活動には意欲的に取り組むことができる。しかし、そこから問いを見いだしたり、主体的に課題を見つけたりできる児童は少なく、学習に対する興味・関心にも個人差が見られる。学習に対する取組の様子を見ると、一問一答のような簡単な質問に対しては進んで挙手して発表できるが、理由や根拠を求められるような思考を伴った問いに対しては、消極的である。

また、地域の施設や古い史跡等への児童の興味関心は高くなく、目にする機会があってもその意義や価値について知っている児童は少ない。世界記憶遺産に登録された「多胡碑」についても、校区にあることは知ってはいるものの、それが何であるのか、なぜ世界記憶遺産に登録されたのかを知る児童は多くない。

そこで、児童にとって最も身近な実社会である地域を題材にし、1年生から6年生まで子供の思いを生かしたつながりのある探究活動を行うことで、生活科では、よりよい生活を創り出すための資質・能力を、総合的な学習の時間では、自己の生き方を考えていくための資質・能力を身に付けることを目指した。

### 3 研究のねらい

地域の特色を生かした単元構成を工夫し、児童の思いを生かした探究課題を設定するとともに、交流活動を工夫することで、主体的・対話的で深い学びを実現する。

さらには、地域の未来を築く一員として、地域に愛着をもち、地域に貢献していこうとする児童の育成を図る。

### 4 研究の内容

#### (1) 全体計画、年間指導計画の見直し

○学年のつながりと教科横断的な視点を重視した全体計画・年間計画づくり、児童の思いを生かした探究課題を設定する。

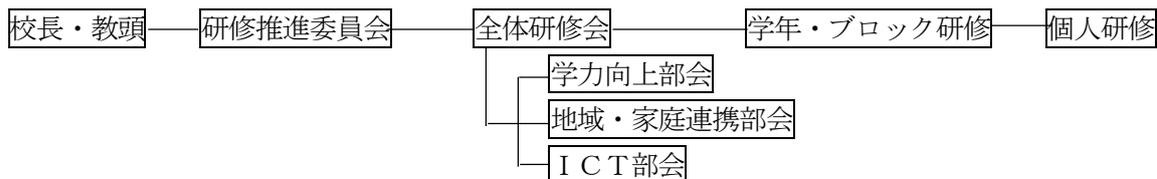
#### (2) 単元計画の見直し

○探究的な学習を意識した単元計画を作成する。

#### (3) 学びを深める交流活動の工夫

○学びを深めるために、教師や児童との対話、タブレット端末を活用した意見交流、ペアやグループでの交流など交流活動を工夫する。

### 5 研究の組織



### 6 研究の経過・計画

#### (1) 研究の経過

年 月 日		研 修 内 容	
令和2年度	7/13	第3回全体研修	・高崎市教育センター 校内研修パッケージ支援 出前講座 「主体的・対話的で深い学び」の趣旨を踏まえた授業改善
	8/19	第4回全体研修	・高崎市教育センター 校内研修パッケージ支援 出前講座 「生活科・総合における授業づくりのポイントと評価について」
	12/7	第7回全体研修	・「地域の特色を生かした単元構成」を確認
	12月中	学年研修	・総合的な学習の時間の年計、単元配列の見直しと確認
	1/18	ブロック研修	・2月の授業に向けて指導案検討
	2/12	第10回全体研修 指導主事要請訪問 ・2年生活科 ・5年総合	・授業公開、授業検討会 高崎市教育委員会指導主事2名 2年 「つながる ひろがる わたしのせいかつ」 5年 「古代の群馬・吉井を探検しよう」
	2～3月	学年研修	・生活科、総合の単元計画の見直し

令和3年度	4/12	第1回全体研修	・今年度の研修主題と研修の進め方についての検討と周知
	5/10	第2回全体研修	・総合的な学習の時間「地域を生かした単元構成」の確認 ・研修の組織編成
	6/10	第3回全体研修	・高崎市教育センター 校内研修パッケージ支援 出前講座 「生活科、総合における授業づくりのポイントと評価」
	7/1	第4回全体研修 指導主事要請訪問 ・2年生活科 ・6年総合	・授業公開、授業検討会 高崎市教育委員会指導主事2名 西部教育事務所指導主事1名 2年 「どきどきわくわくまちたんけん」 6年 「吉井町魅力度UP大作戦」
	7～8月	各学年での実践 個人研修 ブロック研修	・今年度の実践及び実践事例の作成 ・発表に向けた単元構想及び指導案の作成及び検討
	8/23	第5回全体研修	・吉井町について知ろう ・横断的な学習について 【生活科及び総合的な学習に関わる国語科の学習】
	9/13	第6回全体研修	・作成資料の確認及び検討
	10/15	個人研修	・2年 生活科 高崎市教育委員会指導主事による指導案検討
	10/18	個人研修	・2年 生活科 西部教育事務所指導主事による指導案検討
	10/19	個人研修	・5年 総合的な学習の時間 高崎市教育委員会指導主事による指導案検討
11/26	発表会	・授業公開、授業検討会 2年「もっとなかよし まちたんけん」 5年「広げよう、伝えよう 多胡碑の魅力」	

(2) 研究の計画

月 日		研 修 内 容	
令和3年度	1～2月	学年研修	生活科・総合的な学習の時間の成果と課題分析
		全体研修	生活科・総合的な学習の時間の成果と課題分析
	2～3月	学年研修	年間指導計画、単元の見直しと修正
		全体研修	年間指導計画、単元の見直しと修正

## II 研究の実践

### 1 生活科・総合的な学習の時間 単元配列

		生活科・総合的な学習の時間 単元配列表											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年		がっこうだいすき <sup>⑮</sup>	なつがやってきました <sup>⑧</sup>	きれいにさいてね <sup>⑧</sup>	いきものと なかよし <sup>⑥</sup>	たのしいあき いっぱい <sup>⑮</sup>	じぶんで できるよ <sup>⑫</sup>	ふゆを たのしもう <sup>⑨</sup>	もうすぐ 2ねんせい <sup>⑩</sup>				
2年		春だ 今日から 2年生 <sup>⑥</sup>	ときどきかくわく まちたんけん <sup>⑩</sup>	生きものなかよし たいさくせん <sup>⑫</sup>	うごこうわたしの おもちゃ <sup>⑫</sup>	みんなであつかう まちのせい <sup>⑧</sup>	もっとなかよし まちたんけん <sup>⑩</sup>	つながる広がる わたしの生活 <sup>⑫</sup>	あしたへジャンプ <sup>⑮</sup>				
3年				ぐんぐんそだて わたしの 野さい <sup>⑩</sup>									
3年				吉井っていいな <sup>⑮</sup>									吉井町の時間旅行をしよう <sup>⑮</sup>
3年				学び方を知ろう <sup>⑮</sup>									ピアサポート <sup>⑩</sup>
4年				吉井発見～昔の吉井にタイムスリップ（火打ちがね） <sup>⑮</sup>									吉井発見～昔の吉井にタイムスリップ（吉井の古いもの） <sup>⑮</sup>
4年													ピアサポート <sup>⑩</sup>
4年													学校発見～吉井小をもっとよくしよう大作戦 <sup>⑮</sup>
5年				広げよう 伝えよう 多胡碑の魅力 <sup>⑮</sup>									
5年				林間学校を成功させよう <sup>⑮</sup>									自分発見 <sup>⑩</sup>
5年													ピアサポート <sup>⑩</sup>
6年				吉井町魅力度UP大作戦 <sup>⑮</sup>									
6年													自分の生き方を考えよう <sup>⑮</sup>
6年													鎌倉に向かって <sup>⑮</sup>
6年													ピアサポート <sup>⑩</sup>

1 生活科全体計画・学年計画

(1)生活科全体計画

令和3年度

生活科 全体計画

高崎市立吉井小学校

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法</li> <li>・教育基本法</li> <li>・学校教育法</li> <li>・学習指導要領</li> <li>・県学校教育の指針</li> <li>・市教育方針</li> </ul>	<p>学校教育目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態</li> <li>・地域の実態</li> <li>・学校の実態</li> <li>・教師の教育理念</li> <li>・保護者の願い</li> </ul>
	<p>高い知性、豊かな特性、たくましい体力を備え、夢や希望をもち、社会に主体的に貢献できる人間の基礎を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら考え、新しいことに挑戦できる子(知性:自ら学ぶ子)</li> <li>○相手のことを考え、正義感のある子(徳性:思いやりのある子)</li> <li>○健康な心と体を自分でつくり、自分で守る子(体力:たくましい子)</li> </ul>	

<p>生活科の目標</p>
<p>具体的な体験や活動を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。</p> <p>(3)身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。</p>

学習課題		【生活科において育てたい資質や能力】		
1年	2年	知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力の基礎	学びに向かう力、人間性等
○がっこうだいすき②	○春だ、今日から2年生⑥	(1)学校での生活や様々な人や施設と関わっていることが分かる。	(1)学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考える。	(1)楽しく安心して遊びや生活したり安全な登下校をしたりしようとする。
○きれいにさいてね⑤	○ぐんぐんそだてわたしの野さい⑩	(2)家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる。	(2)家庭における家族のことや自分のできることなどについて考える。	(2)自分の役割を積極的に果たしたり規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。
○なつがやってきた⑧	○どきどきわくわくまたたんけん⑩	(3)自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる。	(3)地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える。	(3)地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々に親しみや愛着を持ち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。
○いきものとなかよし⑥	○生きものなかよし大作せん⑩	(4)身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることが分かる。	(4)公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりする。	(4)公共物や公共施設を大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする。
○たのしいあきいっぱい⑫	○うごくわたしのおもちゃ⑫	(5)自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付く。	(5)自然や行事の違いや特徴を見付ける。	(5)自然や季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
○じぶんでできるよ⑫	○みんなであつちまのしせつ⑥	(6)遊びの面白さや自然の不思議さに気付く。	(6)遊びや遊びに使うものを工夫してつくる。	(6)みんなと楽しみながら遊びを作り出そうとする。
○ふゆをたのしもう⑨	○もつとなかよしまたたんけん⑫	(7)動植物は生命をもっていることや成長していることに気付く。	(7)動植物のそだつ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかける。	(7)生き物への親しみをもち大切にしようとする。
○もうすぐ2ねんせい⑫	○つながる広がるわたしの生活⑫	(8)身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる。	(8)伝えたいことや伝える方法を学ぶ。	(8)進んでふれあい交流しようとする。
	○あしたへジャンプ⑫	(9)自分が大きくなったこと、自分できるようになったことを、役割が増えたことなどが分かる。	(9)自分のことや支えてくれた人々について考える。	(9)これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

**【学習活動】**  
 ・地域の実態、児童の実態を踏まえ、テーマを設定する。  
 ・地域の「ひと、もの、こと」を生かした学習活動を行う。  
 ・多様な表現方法を身に付け、学習成果を表現する場を設定する。  
 ・学習の振り返りを大事にし、児童が自分の学びに向き合う機会を増やしていく。

**【指導方法】**  
 ・学級実態と授業や生活等から、子どもの課題を生み出す。  
 ・地域の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。  
 ・体験活動を重視する。  
 ・まとめ、発表活動を重視する。  
 ・各教科等との関連を重視した指導を行う。

**【指導体制】**  
 ・体験活動等においては、全校指導体制を組織する。  
 ・地域教育資源の蓄積と、公民館や支所、外部団体等との地域連携を図る。  
 ・教職員自ら地域の自然や文化、産業等を学ぶ。

**【学習の評価】**  
 ・観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。  
 ・学習カード等を活用した個人内評価を重視し、学びの成果を児童が実感できるようにする。

**【幼児教育との関連】**  
 ・こども園等と連携を図り、スタートカリキュラムを実践し、生活科を核とした合科的・関連的な指導を行う。

【各教科等との関連】

国語	算数	音楽	図画工作	特別の教科 道徳	特別活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わるように順序よく話す力</li> <li>・必要な事柄を集めたり確かめたりする力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数の概念や量の大きさが分かる</li> <li>・個数等に着目し、事象の特徴を捉える力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく音楽に関わり共同して楽しむ力</li> <li>・音楽を通して生活を明るくものにしている態度など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や用具を使い、創造的に作り出す力</li> <li>・形や色などに関わり、生活を楽しくする態度など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な活動をする中で、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を身に付けるなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団行動する力</li> <li>・話し合う力</li> <li>・友だちと関係を気付く力</li> </ul>

【学校内外の教育資源の活用】

○保護者 ○地域の人々(安全を守る人・交通指導員・安全を守る家の人・野菜を育てる人)
○公共機関とそこで働く人々(公民館、支所、図書館、郷土資料館、体育館、保健センター、給食センター、交番、消防署、郵便局、小学校、中学校、こども園など)
○町で働く人とその施設(飲食店、菓子店、スーパーマーケット、病院、商店)

(2)生活科学年計画(1学年)

吉井小学校 1年 生活科 「がっこうだいすき」単元構想

指導期間:4月～9月			指導時数 20時間			
単元の目標						
過程	月	時間	【小テーマ】 学習活動のねらい	○ 主な学習活動	● 指導上の留意点	評価 (評価の観点) 【方法】
であう	4	1	○みんなで教室や学校を見て回り、幼児期に使っていた施設との共通点を探しながら、学校施設の位置や使い方に気付き、安心して生活することができるようにする。 ○友達や学校生活を支える人と関わり、友だちの存在やよさに気付き、安心して遊びや学習をしようとする。	○学校生活の過ごし方や教室の使い方を考える。 ○名刺を作って自己紹介をする。 ○校庭に出かけ、みんなで遊ぶ。 ○学校の中をみんなで歩いてめぐる。 ○学校の中を歩いたり、学校生活について話し合ったり、人数集めゲームをしたりする。 ○校庭で遊んだり、探検したり、生き物を探したりする。 ○校庭で遊び、友達と関わる。 ○学校生活の過ごし方や教室の使い方を考える。	●入学当初には、幼児期の学びから、小学校における学びに円滑に移行するために「スタートカリキュラム」を編成する。 ●スタートカリキュラムでは、合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割を児童の実態に応じて設定などの工夫をする。	・学校施設の位置や使い方に気付いている。(知識・技能) 【発言・行動観察・ワークシート】 ・幼児期の教育で使っていた施設との共通点を探しながら、学校の中を歩いている。(思考・判断・表現) 【発言・行動観察・ワークシート】 ・友達の存在やよさに気付いている。(知識・技能) 【発言・行動観察・ワークシート】 ・友達と学校生活を過ごすことの楽しさを実感し、一緒に遊びや学習をしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動観察・ワークシート】
		2				
3						
4						
5						
6						
7						
8						
はたらきかける	5	9	○友達が行った施設の情報と自分の思いを照らし合わせて、探検に行きたい場所を選んで探検に行き、学校の施設の特徴に気付くことができるようにする。 ○学校のことを知りたいという思いをもち、自分との関わりを思い描きながら、学校にいる人に話したり質問したりして、学校にいる人々の働きや役割に気付き、何度も学校生活を支える人々と関わろうとすることができるようにする。	○みんなで行った場所を思い出し、班ごとに探検に行く。 ○見つけたもの、こと、会った人について伝え合い、もう一度、班ごとに学校探検に行く。 ○前回の探検について話し合い、班ごとに別の場所へ学校探検に行く。 ○見つけたものやこと、会った人について伝え合い、不思議に思ったことやもっと知りたいことを話し合う。 ○教科書を見て、どんな人にどんなことを聞きたいか、みんなで話し合い、練習して聞きに出かける。 ○わかったことや気付いたことをみんなで伝え合う。 ○もう一度、聞きに出かける計画を話し合い、知りたいことを聞きに出かける。 ○探検を振り返り、教頭先生はどんな仕事をしているか話し合い、教室に招待する計画を立てる。 ○教頭先生を招待して、学校の安全について話を聞く。	●教科書を見せ「みんなの学校にもあるかな」と投げかけ、学校探検絵の意欲を高める。 ●児童がカードに書くことはせず、教師がタブレット等で撮影した写真を見せながら、補足していく。 ●話し合いを促すため、教師が用意した写真を見せ、「これはどこにあったかな」と投げかける。 ●疑問や、もっと知りたいことを十分引き出し、次時の学習活動につなげていく。 ●聞きたい相手ごとに4～5人程度のグループをつくり、人と会える場所を確認する。 ●聞いできたことをグループごとに順番に話し、分かったことを教師が顔写真の下に板書していく。 ●前回、会えなかった人やもっと聞きたくなった人に、もう一度会いにいこう声をかける。 ●「○○先生はどんなお仕事をしているかな？」と投げかけ、○○先生の役割について児童の関心が向けられるようにする。 ●校長先生に、学校の安全について話してもらい、次の「通学路の安全」の学習につなげる。	・学校施設の特徴に気付いている。(知識・技能) 【発言・行動観察・ワークシート】 ・友達の言った施設の情報と自分の思いを照らし合わせて、探検に行きたい場所を選んでいる。 (思考・判断・表現) 【発言・行動観察・ワークシート】 ・学校にいる人々の働きや役割について気付いている。(知識・技能) 【発言・行動観察・ワークシート】 ・自分との関わりを思い描きながら、学校にいる人に話したり、人に聞いたりで調べようとしている。 (思考・判断・表現) 【発言・行動観察・ワークシート】 ・学校のことを知りたいという思いをもち、何ども行ったり、人に聞いたりして調べようとしている。(主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動観察・ワークシート】
		10				
		11				
		12				
		13				
	6	14				
		15				
		16				
		17				
		18				
ふりかえる	9	19	○学校探検で見つけたことを友達と伝え合い、自分の学校での生活はさまざまな人や施設の働きに支えられていることに気付く、安心感をもって、学校で遊びや生活をしていこうとすることができるようにする。 ○自分の決めた方法で発表し、発表した絵や言葉、写真等を学校の絵地図に付け足す。 ○友達の話聞いて分かったことや気付いたことを話し合う。	○学校探検で見つけた人・もの・ことの中から一番伝えたいことを決める。 ○伝えたいことを絵や分で表したり実物や動画を用意したりして、伝える準備をする。 ○自分の決めた方法で発表し、発表した絵や言葉、写真等を学校の絵地図に付け足す。 ○友達の話聞いて分かったことや気付いたことを話し合う。	●これまでつづけてきた学校の絵地図や、探検中の写真や動画を使い、探検したことを想起できるようにする。 ●友達の発表を見てイメージを持ち、安心して自分の発表ができるようにする。 ●発表に戸惑っている児童にはことが補なったり質問したりして話せるようにする。 ●学校には自分の生活を支えている人がいることに気付けるよう、「○○先生がいるから安心」などの発言を板書する。	・自分の学校での生活はさまざまな人や施設の働きに支えられていることに気付いている。(知識・技能) 【発言・行動観察】 ・自分の学校生活がさまざまな人や施設に支えられていることに安心感をもち、これからも遊びや生活をしていこうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動観察】
		20				
9	19	○みんなで通学路を歩き、自分の登下校時の様子を思い起こしながら、安全を守る人々の願いについて話し、実際の登下校時に、安全に気を付けて行動しようとするようにする。	○通学路にある、安全を守るための物や人について話し合い、みんなで学校の周りを歩く計画を立てる。 ○学校周辺の通学路の1コースをみんなで歩き、気付いたことを話し合う。	●登下校に慣れ、安全への意識が弱くなってくる時期である。通学路の楽しいところだけではなく、危ないところも思い出そう投げかける。	・登下校では、安全に気を付けて行動している。(知識・技能) 【発言・行動観察】 ・自分の登下校時の様子を思い起こし、安全を守る人々の願いについて話している。(思考・判断・表現) 【発言・行動観察・ワークシート】 ・自分の登下校が、安全を守る人や施設に支えられていることを実感し、自分でも安全に登下校をしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動観察】	
						20

(3) 生活科学年計画(2学年)

吉井小学校 2年 生活科 「どきどき わくわく まちたんけん」単元構想

指導期間:4月～7月			指導時数:10時間			
単元の目標		地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所と自分との関わりを見つけ、地域にはさまざまな場所があり、さまざまな人がいることに気付くとともに、地域の場所や人に親しみを持ち、適切に接したり、安全に気を付けて生活したりしようとするができるようになる。				
過程	月	時間	【小テーマ】 学習活動のねらい	○ 主な学習活動	● 指導上の留意点	評価 (評価の観点) 【方法】
であう	4	1	○友達と身近な地域のことを話す中で、自分の知っている場所やまだ知らない場所などいろいろな場所があることに気付き、地域に探検に行きたいという思いをもつことができる。	○吉井町の自分の知っている場所やお気に入りの場所などについて話し合う。	●「吉井町でおススメの場所はどこですか?」と尋ね、学習の意欲が高まるようにする。 ●お店や施設、公園など具体的な視点を示し、児童が吉井町について知っている場所を想起しやすくする。 ●児童が今後の探検計画作りや探検に主体的に取り組めるようにする。	・吉井町にはまだ知らない場所があることに気付いている。 (知識・技能) 【発言・行動観察・ワークシート】 ・友達の話聞いて、探検に行きたいという思いをもっている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動観察・ワークシート】
		2 3 4	○行ってみたい場所や見ていた場所を思い描きながら、友達や自分の行きたい場所や時間に応じて、探検する場所を調整したり、順番を変えたりして、探検の計画を立てようとするができる。	○探検に行きたい場所を話し合う。 ○グループごとに探検の計画を立て、計画表に記入する。 ○探検の計画や、探検のルール・マナーを確認する。	●主体的に探検できるように、行きたい場所ごとにグループを作る。 ●「行きたい場所」だけでなく、「行って何をしたいのか」をワークシートに書くよう助言することで、探検に行った際に見てくる視点を明確にさせるようにする。 ●グループごとの話し合いの状況に応じて、見守ったり助言したりする。	・友達や自分の行きたい場所や時間に応じて、探検する場所を調整したり、順番を変えたりして探検の計画を立てたり、約束を決めたりしている。 (思考・判断・表現) 【発言・行動観察・ワークシート】 ・友達や自分の行きたい場所や定められた時刻に応じて、探検する場所を調整したり、順番を変えたりしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動観察・ワークシート】
	5	5 6 7	○定められた時刻を守って地域を探検する中で、見つけたものや場所について自分の生活と結び付けながら地域の人に質問し、それらの場所やものが自分の生活と関わっていることに気付くことができるようにする。	○グループごとに探検に行き、みんなに伝えたいこと、発見したことを見付けてくる。 ○探検先で出会った人に質問したり、あいさつしたりする。	●タブレット端末を持っていき、自分自身の発見を記録に残せるようにする。 ●国語の学習で挨拶の仕方や説明の仕方、インタビューの仕方などを確認しておいたり、道徳の学習で「あいさつ」について扱ったりしておく。 ●探検を終えて学校に戻ってきてからの活動についても確認しておく。 ●安全に町たんけんを行えるよう、ボランティアを募り、1グループに1名保護者の方に付き添ってもらう。	・身近な地域の場所が、自分の生活と関わっていることに気付いている。 (知識・技能) 【発言・行動観察・ワークシート】 ・地域を探検する際、定められた時刻を守っている。(知識・技能) 【行動観察】 ・様々な人々に関わったりする際、相手や場に応じた挨拶や言葉遣いをしたり、訪問や連絡、依頼を適切に行ったりしている。 (知識・技能) 【発言・行動観察】
		8 9 10	○探検で見つけたことを交流する中で、地域には自分たちの生活と関わっている場所がたくさんあることや、それらの場所が自分たちの生活を楽しくしていることに気付き、それらを自分たちの生活に取り入れようとするができる。	○探検で見つけたことや気付いたことをふり返り、記録カードに書く。 ○見つけたことの中で、いちばん伝えたいことを付箋に書き、絵地図に貼る。 ○絵地図やタブレットを示しながら、自分たちが見つけたことやわかったことなどをグループごとに発表する。	●多様な気付きを認め合えるように付箋を使って自分の意見を出し合い、整理する。その際、人とのつながりにも着目させたいので、「もの」と「人」で付箋の色を変えて書けるようにする。 ●発表をする際の資料となるように、各自で書いた付箋を場所ごとにまとめ、見られるようにしておく。 ●一人一人が活躍できるように発表の担当を決めて発表の準備を進める。 ●一人で難しい場合には、グループで話し合う時間をもち、助言し合いながら発表の準備を進めるようにする。	・身近な地域には自分たちの生活と関わっている場所がたくさんあり、それらが自分たちの生活を楽しくしていることに気付いている。 (知識・技能) 【発言・行動観察・付箋】 ・地域の場所や人々と自分の生活と関連付けながら、捉えている。 (思考・判断・表現) 【ワークシート】 ・好きになった場所や親しくなった人々などのことをふり返りながら、友達や地域の人々などに知らせている。 (思考・判断・表現) 【行動観察・発表】
	7					・身近な地域には自分の生活を楽しくしてくれる場所があることを実感し、それらを自分の生活に取り入れようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動観察】
ふりかえる						

## 2 総合的な学習の時間全体計画・学年計画

### (1) 総合的な学習の時間全体計画

#### 令和3年度 高崎市立吉井小学校 総合的な学習の時間 全体計画

学習指導要領の目標	<p><b>【学校の教育目標】</b>                  高い知性、豊かな徳性、たくましい体力を備え、夢や希望をもち、社会に主体的に貢献できる人間の基礎を培う。                  (1) 自ら考え、新しいことに挑戦できる子 (自ら学ぶ子 知性)                  (2) 相手のことを考え、正義感のある子 (思いやりのある子 徳性)                  (3) 健康な心と体を自分でつくり、自分で守る子 (たくましい子 体力)</p>
<p><b>【総合的な学習の時間の目標】</b>                  探究的な見方・考え方を働かせ、人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。                  (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。                  (2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調べて得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。                  (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。</p>	

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成する具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
3年 ○吉井っていいな ○学び方を知ろう ○吉井町の時間旅行をしよう 4年 ○吉井発見～昔の吉井にタイムスリップ ○コンピュータとわたしたち 5年 ○林間学校を成功させよう ○自分発見 ○広げよう、伝えよう 多胡碑の魅力 6年 ○吉井魅力度UP大作戦 ○修学旅行を成功させよう ○自分のよさを知り、未来の設計図を考えよう	<p><b>【別紙】</b>                  探究課題の解決を通して育成する具体的な資質・能力参照</p>		

教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力	
情報活用能力	言語能力

#### 【各教科等における見方・考え方】

国語	自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付ける。	家庭	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫する。
社会	社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに注目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりする。	体育	運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付ける。
算数	事象を数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え、論理的、統合的、発展的に考える。	保健	個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付ける。
理科	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考える。	外国語活動 外国語	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築する。
生活	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連付け、試行、予測、工夫することなどを通して、自分自身や自分の生活について考える。	道徳科	様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考える。
音楽	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付ける。	特別活動	各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現と関連付ける。
図工	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだす。	総合	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続ける。

【学習活動】	【指導方法】	【指導体制】	【学習の評価】
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の実態、児童の思いや願いを生かして、探究課題を設定する。</li> <li>地域の人、もの、ことを生かした学習活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習を重視する。</li> <li>体験活動を重視する。</li> <li>まとめ、発表活動を重視する。</li> <li>各教科等との関連を重視した指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験活動等においては、全校指導体制を組織する。</li> <li>メディアセンターとしての学校図書館、パソコン室の整備等、充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点別学習状況を把握するための評価規準を明確に設定する。</li> <li>個人内評価を重視し、学びの成果を児童が実感できるようにする。</li> </ul>

【別紙】探究課題の解決を通して育成する具体的な資質・能力

学年	3年	4年	5年	6年
テーマ	高崎・吉井の地域を知り、地域と自分の未来を創りだす吉井っ子			
知識及び技能	<b>伝統・文化・地域の人々の暮らし</b> 吉井っていいな (25時間) ○吉井かるたや社会科の学習を通して、自分たちの住む地域の産業について調べ、農産物を栽培し、農産物をつかったレシピを考えて実食する活動を通して、地域の魅力を知り、地域に愛着をもつ。  吉井町の時間旅行をしよう (20時間) ○吉井町の昔の生活や行事を調べたり、高齢者に話を聞いたりするなどの活動を通して、今の自分たちとのつながりを考え、それをまとめ、発表する。	<b>伝統・文化・地域の人々の暮らし</b> 吉井発見～昔の吉井にタイムスリップ(火打ちがね) (20時間) ○「火打ちがね」を体験、調べることを通して、昔の吉井町とのつながりに気付き、守り伝えるためにできることを考えるとともに、自分のできることを見つける。  吉井発見～昔の吉井にタイムスリップ(吉井に残る古いもの) (25時間) ○吉井にある古くからあるものを見学したり、調べたりすることを通して、吉井には文化財や古くから伝わる祭等があること、それを守ってきた人がいることを知り、ふるさと吉井を大切にしようという思いをもてるようにする。	<b>キャリア</b> 自分発見(6年生に向けて) (10時間) ○6年生になる前の自分の現状や課題を捉え、それを解決するための具体的な方法を考えたり、6年生を送る会の企画、運営を通して、今の自分たちができる活動に進んで取り組んだりする。  <b>伝統・文化・地域の人々の暮らし</b> 広げよう、伝えよう 多胡碑の魅力 (35時間) ○多胡碑の学習から、歴史学習への興味を高めるとともに、吉井地域の歴史や伝統の重みを実感し、新聞づくりで発信する。	<b>キャリア</b> 自分のよさを知り、未来の設計図を考えよう (20時間) ○キャリア教育としての自己理解・職業調べ・職業体験を通して、自己の可能性を伸ばし、未来の設計図を立てる。 ○キッザニアでの職業体験を通して、自己の課題を理解し、それを克服しようとする意欲を高める。  <b>伝統・文化・地域の人々の暮らし</b> 吉井町魅力度UP大作戦 (20時間) ○今までの学習を生かし、「吉井町」の魅力度を上げるための作戦を考え、PRする。
	<b>プログラミング</b> 学び方を知ろう (15時間) ○ローマ字学習、パソコンの操作、ローマ字入力の学習を通して、学習課題の調べ方やまとめ方、発表の仕方の素地を身に付ける。	<b>プログラミング</b> コンピュータと私たち (8時間) ○コンピュータが動くためにはプログラムが必要であることを理解し、意図した動作をさせる体験を通して、主体的にコンピュータを役立てようとする。	<b>プログラミング</b> 算数「正多角形と円」 (2時間)	<b>プログラミング</b> 理科「電気の利用」(4時間)
			<b>行事</b> 林間学校を成功させよう (15時間) ○自然の中での集団宿泊活動を通して、自然に親しむとともに、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、ともに協力し合うなどの望ましい人間関係を築く。	<b>行事</b> 修学旅行を成功させよう (20時間) ○鎌倉の寺社や場所について調べることを通して、見学地についての理解を深めるとともに、調べたことを班別行動に生かす。
	<b>人間関係づくり</b> ピアサポート (10時間) ○縦割り班活動を通して、異学年の子と一緒に遊んだり、交流したりすることで、お互いを信頼し、心を開いて接する。 ○異学年との関わりを通して、集団の中で自分を表現したり、相手の気持ちに着目した行動をしたりする。		情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	
	情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。		情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	
思考力、判断力、表現力等	<b>課題の設定</b> 自分の関心から地域についての課題を設定し、解決方法を考えて追究している。	地域の人々等の思いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見直しをもって追究している。		
	<b>情報の収集</b> 目的に応じた対象を決め、自分たちの身近なところから情報を集めている。	目的に応じて手段を選択し、情報を収集したり、必要な情報を選んだりしている。		
	<b>整理・分析</b> 問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして、特徴を見付けている。	視点を明確にして問題状況における事実や関係と、整理した情報を関連付けたり、多面的に考察したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。		
	<b>まとめ表現</b> 相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。	相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめ、表現している。		
	<b>振り返り</b> 学習したことを振り返り、生活に生かそうとしている。	学習の仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとしている。		
学びに向かう力、人間性等	<b>主体性</b> 課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。	課題意識をもって、自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。		
	<b>協働性</b> 課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。	課題解決に向けて、他者と協働して探究活動に取り組み、その大切さに気付いている。		
	<b>自己理解</b> 自分のよさや自分にできることに気付いている。	探究活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴を理解しようとしている。		
	<b>他者理解</b> 自分と異なる意見や考えがあることに気付き、相手の立場を理解する。	異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しながら、探究活動に取り組んでいる。		
	<b>社会参画</b> 自分と地域とのつながりに気付き、地域の活動に参加しようとしている。	探究活動を通して、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする。		

(2) 総合的な学習の時間学年計画(3学年)

吉井小学校 3年 総合的な学習の時間「吉井っていいな」単元構想

指導期間:4月～11月			指導時数 28/70時間			
単元の目標			○吉井かるたや社会科の学習を通して、自分たちの住む地域の産業について調べ、農産物を栽培し、農産物をつかったレシピを考えて実食する活動を通して、地域の魅力を知り、地域に愛着をもつことができる。			
過程	月	時間	【小テーマ】 学習活動のねらい	○ 主な学習活動	●指導上の留意点	評価（評価の観点）【方法】
つかむ	4	1	【単元の課題を把握する】 ○社会科の学習を通して、吉井小周辺の土地利用について知ったり、吉井かるたを通して地域の特色にふれたりすることで、吉井町の特産物について学習していくことをつかむ。	○学校の屋上から、吉井小の周りの様子を観察する。 ○吉井かるたをする。	●屋上から学校の周りの様子を観察することで、田や畑の広がっている地域があることに気づくことができるようにする。 ●吉井かるたを通して、吉井町には、いろいろな特色があり、身近な食べ物として特産のきゅうりといったけがあることを気付くことができるようにする。	・今後何を学習していくのか見直しをもつことができる。(態)【観察・発言】
		2				
		3				
追究する①	5	4	【情報の収集】 ○きゅうり農家を訪ねて、実際の様子を見学する。	○地域の農家を見学に行く。	●吉井地域できゅうりが栽培されている所を見学することで、自分達も育ててみたいという興味をもつことができるようにする。また、見通しをもち、今後の活動に取り組むことができるようにする。	・見学したことや聞いたことを記述している。(知)【ワークシート】
		6				
		7				
		8				
	9	【栽培・観察】 ○きゅうりを植える。	○農家の方へ伺ったことや自分達で調べたことをもとにして、学校の畑にきゅうりの苗を植える。	●苗を植える際は、グループごとに行うことで、今後愛着をもつて育てていくことができるようにする。	・調べたことをもとに植えることができる。(知)【観察・発言】	
	10					
	6	11	【栽培・観察・整理・分析】 ○成長の過程を観察し、観察日記に記録する。	○きゅうりの成長過程を各自の観察日記に記録する。	●自分達が調べた育ち方と照らし合わせながら、成長の記録を観察日記に記録していくことで、これまでの学習を比較・検証していくことができるようにする。 ●育てていく過程で新たに生まれた疑問は、その都度本やインターネットで調べたり、農家の方へ伺ったりすることで、解決しながら学習を進めていくことができるようにする。	・成長の様子を記録している。(思)【観察記録】
		12				
		13				
	7	16	【情報収集】 ○きゅうりを使ったレシピを調べる。	○きゅうりのおいしい食べ方について、家の人へのインタビューやインターネットの検索で調べる。	●自分が食べてみたい、きゅうりを使ったレシピをインターネットやインタビューなどで調べることで、興味関心をもって活動できるようにする。(もしくは、家庭に協力を仰ぎ、レシピを考えるのもよい。) ●調理計画は、ワークシートにまとめておくことで、家庭で実践しやすいようにしておく。	・インターネットやインタビューなどで自分なりに調べ、記述している。(態)【ワークシート】
17						
まとめる①	7	18	【まとめ・表現】 ○考えたレシピを家庭で実践し、クラスで発表する。レシピを給食センターに持って行って、献立の参考にしよう。	○自分が調べたり考えたりしたレシピで、家できゅうりの料理を作る。 ○作った料理について、みんなに紹介する。 ○作った料理は、給食センターに届け、献立の参考にしよう。	●家庭での調理の様子は、ワークシートに記入しておくことで、学校で各自の実践を報告・共有できるようにしておく。 ●お互いの実践を報告し合う時間を設けることで、きゅうりを使ったレシピがいろいろあることを知り、他のものも作ってみたいという、更なる関心をもつことができるようにする。 ●給食センターに協力を仰ぎ、献立の参考にしようすることで、給食でも、興味・関心をもって食べることができるようにする。自分達の学習したことが、実際の献立に生かされることで、きゅうりは勿論のこと、地域の他の特産物についても、一層興味関心をもつことができるようにすることで、後半の学習活動につなげることができるようにする。	・実践し、発表することで地域の特産品に関心を深めている。(態)【観察】
		19				
		20				
追究する②	9	20	【情報収集】 ○なめこの育て方について、きのこの里の方からお話を聞く。	○きのこの特徴や栽培方法についてきのこの里の方からお話を伺う。	●育て方を直接伺うことで、見直しをもって活動することができるようにする。きゅうりときのこの育ち方の違いにも気づくことができるようにする。	今後何を学習していくのか見直しをもつことができる。(知)【観察・発言】
		21				
		22				
	10	22	【栽培・観察・整理・分析】 ○成長の過程を観察し、観察日記に記録する。	○なめこの成長過程を各自の観察日記に記録する。	●一人一株育てることで、責任と愛着をもって、栽培や観察を行うことができるようにする。	・調べたことを自分なりにまとめ、記述している。(思)【ワークシート】
		23				
まとめる②	10	24	【情報収集】 ○なめこのおいしい食べ方について、家の人へのインタビューやインターネットの検索で調べる。	○なめこのおいしい食べ方について、家の人へのインタビューやインターネットの検索で調べる。	●自分が食べてみたい、なめこを使ったレシピをインターネットやインタビューなどで調べることで、興味関心をもって活動できるようにする。(もしくは、家庭に協力を仰ぎ、レシピを考えるのもよい。) ●調理計画は、ワークシートにまとめておくことで、家庭で実践しやすいようにしておく。	・活動を通して吉井町のよさに気付く、記述している。(態)【ワークシート・観察】
		25				
		26				
11	26	【まとめ・表現】 ○考えたレシピを家庭で実践し、クラスで発表する。レシピを給食センターに持って行って、献立の参考にしよう。	○自分が調べたり考えたりしたレシピで、家でなめこの料理を作る。 ○作った料理について、みんなに紹介する。 ○作った料理のレシピは、給食センターに届け、献立の参考にしよう。	●家庭での調理の様子は、ワークシートに記入しておくことで、学校で各自の実践を報告・共有できるようにしておく。 ●お互いの実践を報告し合う時間を設けることで、なめこを使ったレシピがいろいろあることを知り、他のものも作ってみたいという、更なる関心をもつことができるようにする。 ●給食センターに協力を仰ぎ、献立の参考にしようすることで、給食でも、興味・関心をもって食べることができるようにする。自分達の学習したことが、実際の献立に生かされることで、地域の他の特産物についても、一層興味関心をもつことができるようにする。	・活動を通して吉井町のよさに気付く、記述している。(態)【ワークシート・観察】	
	27					
11	28	【振り返り】 ○単元全体の学習を振り返る。	○今までの活動を振り返る。	●お世話になった方々に手紙を書き、学習の成果を報告することで、学習を通して成長した自分に気付くことができるようにするとともに、自分の住んでいる地域のよさを改めて感じ、愛着をもつことができるようにする。		

吉井小学校 3年 総合的な学習「吉井町の時間旅行をしよう」単元構想

指導期間 :11月～3月			指導時数 20時間/70時間			
単元の目標 吉井町の昔の生活や行事を調べたり、祖父母などの家族や親戚に話を聞くなどの活動を通して、地域のよさを知り、地域を愛する気持ちをもつ。						
過程	月	時間	【小テーマ】 学習活動のねらい	○ 主な学習活動	●指導上の留意点	評価（評価の観点）【方法】
つかむ	11	1	【課題をつかむ】 資料やインタビューをもとに、「むかしの生活道具や遊び、行事などについて知ろう」という学習課題をつかむ。	○社会科の学習から、昔の生活や行事等についてふりかえる。	●社会科の該当部分の学習を先に済ませておき、想起しやすいようにする。	・歴史民俗資料館での学びを振り返り、昔の様子について学習する見直しをもつ。〈態〉【観察・発言】
		2		○インタビューの計画を立てる。	●祖父母や親戚、近所の人などに、昔の暮らしや行事等について知りたいことをインタビューできるように、ワークシートを準備する。	・インタビュー計画を立て、発表し合うことで、昔の生活について関心を深めている。〈思〉【ワークシート・観察】
		3		○インタビューの結果を共有する。	●インタビューで分かったことを発表し合うことで、内容を共有できるようにする。	
		4		○自分が調べたいことを考えて課題を設定する。	●興味をもったことを生かして、課題が設定できるようにする。	・興味をもったことをもとに、自己の課題を設定している。〈知〉【ワークシート・観察】
追究する	11・12	5～8	【情報の収集】 本やインターネットなどの資料から、情報を収集する。	○自分の課題について、図書館の本を使って、情報を集める。	●事前に司書教諭に相談し、関連した本のある程度の冊数をそろえておいてもらう。	・本を使って、必要な情報を収集しワークシートにまとめている。〈思〉【ワークシート・観察】
		9～12		○自分の課題について、インターネットを使って、情報を集める。	●調べる際は、博物館のホームページやNHKのアーカイブスなどを活用し、子どもが必要な情報を探す際に、情報量が多すぎて、探しきれなくなるような、配慮する。	・インターネットやタブレットを使って調べたことを自分なりにまとめている。〈思〉【ワークシート・観察】
		13		○調べ学習を行う。	●本やインターネットで調べた内容のうち、どの部分を新聞にまとめるのかを考え、使う文章に線を引く等の活動を通して、自分達で伝えたい内容を選ぶことができるようにする。	・調べてきた情報を精査し、伝えたいことを選択している。〈思〉【ワークシート・観察】
まとめる	1・2・3	14～19	【まとめ・表現】 調べた内容を新聞にまとめ、グループごとに発表する。	○調べたことを各自新聞にまとめる。 ○3・4人ずつのグループでお互いの新聞を発表し合う。	●新聞にまとめる際は、見出しのつけ方、紙面の割り振り、載せる内容などを全体で確認し、基本的な新聞の作り方を理解できるようにする。 ●発表の際には、小グループに分かれて、全員が自分の調べた内容を友達に伝えることができるようにする。	・調べたことを分かりやすく新聞にまとめている。〈思〉【新聞】 ・発表することで、昔の暮らしについて関心を高めている。〈態〉【観察】
		20		○調べたことを発表する。	●これまでの学習を振り返り、昔の人々の生活の苦勞や知恵に気付くとともに、より便利な生活を求めて、道具が変化してきたことを実感し、自分達の今の生活そのものに、愛着をもつことができるようにする。	・活動を通して、昔の人々がどのように便利な生活を送ろうと工夫していたのかについて、気付き、記述している。〈知〉【ワークシート・観察】

(3) 総合的な学習の時間学年計画(4学年)

吉井小学校 4年 総合的な学習の時間 「吉井発見～昔の吉井にタイムスリップ(火打ちがね)」単元計画

指導期間:4月～7月			指導時数 20/70時間					
単元の目標 ○「火打ちがね」を体験、調べを通して、昔の吉井町とのつながりに気付き、守り伝えるためにできることを考えたとともに、自分にできることを見つける。								
過程	月	時間	【小テーマ】 学習活動のねらい	○ 主な学習活動	● 指導上の留意点	評価（評価の観点）【方法】		
つかむ	4	1	【単元の課題を把握する】 ○4年生の総合的な学習の内容を知り、見通しをもつ。 ○吉井かるたの「ぬ」に着目し、火打ちがねについて興味をもつ。	○吉井かるたの「ぬきんだぎじゅつの火打ちがね」について考える。	●「ぬきんだぎ技術」、「火打ちがね」とは何かについて考え、なぜ吉井かるたにあるのかを予想させることで課題意識をもたせる。	・「火打ちがね」について興味・感心をもっている。(態)【観察・発言】		
		2		○実際に火打ちがねによる火起こしを体験する。	●郷土資料館の方を外部講師に招き、指導してもらう。 ●安全に十分に配慮して行う。 ●火を扱うときは必ず大人とすることをよく指導する。			
		3		○「ぬきんだぎじゅつの火打ちがね」について知る。	●火をおこすための道具であり、マッチが使われるようになるまで使われていたこと、吉井の火打ちがねは江戸で人気があったことなどについて知らせ、課題がもてるようにする。 ●郷土資料館へ行き、大まかな「火打ちがね」の情報を集められるようにする。			
		4		○どのような課題があるかを考える。	●どんなことが分かったのか、ウェビングマップを用いて確認し、さらに調べたいことを広げていけるようにする。(課題例)なぜ吉井町なのか、どんな店があったのか、江戸時代ってどんな時代、どうやって作るのか、火打ち石について			
		5		○希望する課題を決定し、グルーピングする。	●資料やインターネットで調べたことをそのまま写すのではなく、国語辞典等を使って調べ、自分たちの分かる言葉でメモするように助言する。			
追究する	6	6	【課題の決定】 ○調べたいことを決める。	○資料やインターネットで調べたことをまとめる。	●掲示資料は模造紙で作成する。	・自分で調べたいことを考え、決定することができる。(態)【観察・ワークシート】		
		7		○「火打ちがね」について調べたことをまとめる。	●発表する際には、掲示資料の内容をただ朗読するのではなく、聞き手にしっかりと聞いてもらえるよう、抑揚や間の取り方、資料の提示の仕方などを工夫するよう伝える。			
		8		【情報の収集】 ○インターネットや資料を用いて、課題に対する情報を集める。	○資料やインターネットで課題について調べる。		●「火打ちがね」について分かったことだけでなく、これまでの学習を通して気付いたことや考えたことを記述するよう助言する。	・「火打ちがね」について調べたり、友達の発表を聞いたりすることで、火打ちがねと吉井町のつながりに気付いている。(態)【ワークシート】
		9						
		10						
		11						
		12						
13								
14	【整理・分析】 ○「火打ちがね」について調べたことをまとめる。	○違う課題を調べた班に向けて、模造紙でまとめ、発表原稿を作成する。	●掲示資料は模造紙で作成する。	・掲示資料を模造紙にまとめたり、発表原稿をまとめたりしている。(思)【模造紙】				
15								
16								
17	まとめる	7	【まとめ・表現】 「火打ちがね」について調べ、まとめたことを発表する。	○「火打ちがね」について調べたことを発表する。	●発表する際には、掲示資料の内容をただ朗読するのではなく、聞き手にしっかりと聞いてもらえるよう、抑揚や間の取り方、資料の提示の仕方などを工夫するよう伝える。	・聞き手のことを意識して、分かりやすく発表している。(思)【観察】		
18				○「火打ちがね」について調べたことを発表する。	●「火打ちがね」について分かったことだけでなく、これまでの学習を通して気付いたことや考えたことを記述するよう助言する。	・「火打ちがね」について調べたり、友達の発表を聞いたりすることで、火打ちがねと吉井町のつながりに気付いている。(態)【ワークシート】		
19				○発表を聞いて、わかったことをまとめる。	●「火打ちがね」について分かったことだけでなく、これまでの学習を通して気付いたことや考えたことを記述するよう助言する。	・「火打ちがね」について調べたり、友達の発表を聞いたりすることで、火打ちがねと吉井町のつながりに気付いている。(態)【ワークシート】		
20			○発表を聞いて、わかったことをまとめる。	●「火打ちがね」について分かったことだけでなく、これまでの学習を通して気付いたことや考えたことを記述するよう助言する。	・「火打ちがね」について調べたり、友達の発表を聞いたりすることで、火打ちがねと吉井町のつながりに気付いている。(態)【ワークシート】			

吉井小学校 4年 総合的な学習の時間 「吉井発見～昔の吉井にタイムスリップ(吉井の古いもの)」単元計画

指導期間:9月～12月			指導時数 25/70時間							
単元の目標			○吉井に古くからあるものを見学したり、調べたりすることを通して、吉井には文化財や古くから伝わる祭等があること、それを守ってきた人がいることを知り、ふるさと吉井を大切にしようという思いをもてるようにする。							
過程	月	時間	【小テーマ】 学習活動のねらい	○ 主な学習活動	● 指導上の留意点	評価〈評価の観点〉【方法】				
つかむ	9	1	【単元の課題を把握する】 ○吉井に伝わる古いものについて調べていくことを確認し、課題をもつ。	○自分たちの身のまわりに伝えられている古いものの存在を考え、共有する。	●「古い町なみ」「銅像」「神社」「建物」「お祭り」「芸のう」「人物」など視点を示し、想起しやすいようにする。 ●2年生活科の「まちたんけん」や3年社会の「学校のまわり」の学習、吉井かるたを想起し、古くから伝わるものや昔からありそうなものを考えられるようにする。	・自分たちの身のまわりに伝えられている古いものの存在に気付き、学習の見直しをもととしている。(態)【観察・発言】				
		2		○吉井かるたの中から古いものを見つけ、分類する。	●吉井かるたの中から地域に残る古いものを選び、分類する際には、前時の学習を生かして、「神社」「寺」「建物」「お祭り」「芸のう」「人物」などの視点を示す。	・吉井かるたの中から古いものを選び、視点ごとに分類している。(知)【観察】				
		3								
		4		○課題を決める。	●調べたい課題だけでなく、なぜその課題を選んだのか理由を一緒に考えられるようにワークシートを工夫する。	・課題を決めている。(態)【ワークシート】				
追究する①	10	5	【情報の収集】 ○吉井に伝わる古いものについての情報を集める。	○吉井かるたの読み札のうらや書籍、インターネットなどで情報を集める。	●その課題について知っていること、知りたいことを整理してから情報を集めるようにする。(KWLシート) ●読み方が分からない字があるときには漢字辞典、言葉の意味が分からない場合には国語辞典、そのものが分からない場合には百科事典で調べを確認する。 ●本やインターネットだけでなく、身近な人へのインタビューの方法も薦める。 ●情報をもとに明らかにできるように、書籍の名前やインターネットのホームページ名をメモできるような記録カードを工夫する。 ●「吉井町の歴史」70冊(西資料室)、「吉井町の文化財」10冊(図書室)	・本やインターネットなどを活用し、適切に情報を集めている。(思)【記録カード】				
		6								
		7								
		8								
		9					【整理・分析】 ○調べたことを友達に知らせ、調べたりしないことや新たに調べたいことを確認する。	○調べたことを友達に知らせ、分かりづらいところをアドバイスしてもらったり、質問を聞いたりする。	●友達からのアドバイスをより深く聞くことができるように、グループでの活動にする。 ●調べたことをわかりやすく伝えるために、記録カードをまとめてから話すように助言する。 ●友達の調べたことを聞くときに、国語で既習した「メモの取り方」に気を付け、メモを取りながら聞くようにする。	・友達に自分の調べたことを知らせている。(態)【観察】 ・友達の調べたことを聞き、良かったところ、聞きたいことをまとめている。(思)【ワークシート】
		10						○友達からのアドバイスをもとに、調べなければならぬことや分かりやすくするには何を調べればよいか整理する。	●友達から指摘されたことや分からない言葉や表現について振り返り、新たに調べたことを整理できるよう助言する。	・友達からのアドバイスをもとに、調べ直すことを整理している。(態)【ワークシート】
11										
追究する②	11	12	【情報の収集】 ○吉井に伝わる古いものについての情報を再度集める。	○関係者にインタビューや手紙を書いたり、本やインターネットなどで情報を集め直したりする。	●調べたことが重複しないように、今まで調べてもわからなかったことの情報を集めるように助言する。	・今まで集めることができなかった情報をインタビューや手紙で調べている。(態)【記録カード】				
		13								
		14								
		15					【整理・分析】 ○調べたことを伝える方法と内容を検討する。	○調べたことを伝える方法を考え決定し、調べた内容の中から伝えることを選ぶ。	●発表する方法については、主に国語の既習の学習から選ぶようにする。	・発表するために必要な情報や内容を決めている。(態)【ワークシート】
まとめる	12	16	【まとめ・表現】 ○調べたことをまとめ、クラスの友達に発表する。	○クラスの友達に発表するために、調べたことをまとめ、原稿を作成する。	●読み手がわかるための工夫を確認し、作成する。	・掲示資料を分かりやすくまとめたり、発表原稿をまとめたりしている。(思)【ワークシート】				
		17								
		18								
		19								
		20								
		21					○クラスの友達に発表する。	●発表する時に気を付けなければならないことを確認してから発表する。 ●友達の発表についてメモを取りながら聞くようにする。	・声の大きさや聞こえやすさに気を付けて発表している。(思)【発表】	
12	22	【まとめ・表現】 ○吉井に伝わる古いものについて調べ、まとめたことを3年生に発表する。	○発表した際にクラスの友達からアドバイスされたことをもとに、発表内容を検討する。	○発表を聞いてもらうのが3年生であることを考え、発表や掲示資料に使用する言葉をわかりやすいものに変換するようにし、相手意識をもたせる。	●発表を聞いてもらうのが3年生であることを考え、発表や掲示資料に使用する言葉をわかりやすいものに変換するようにし、相手意識をもたせる。	・友達のアドバイスや、上級生の発表を聞いた経験を生かして、発表内容を検討している。(思)【観察】				
	23									
	24									
	25						○調べたことを3年生に向けて発表する。	●発表は屋台村形式をとる。	・友達のアドバイスや、上級生の発表を聞いた経験を生かして、発表内容を検討している。(態)【観察】	

吉井小学校 5年 総合的な学習の時間 「広げよう、伝えよう多胡碑の魅力」単元構想

		指導期間:4月～11月	指導時数 35/70時間
単元目標		○「多胡碑」を核として、自分たちの住む地域の歴史や文化財について調べ、拓本や碑文ラリーを体験し、PRする活動を通して、地域と自分の在り方について考えることができる。	
過程	月 時間	【小テーマ】 学習活動のねらい	○ 主な学習活動 ● 指導上の留意点 (評価の観点) ◇ 指導に生かす評価 ● 記録に残す評価 【方法】
つかむ	4	1 【単元の課題を把握する】 ○多胡碑の碑文の暗唱や上野三碑カルタを通して多胡碑への関心を高める。	○5年生の総合学習のめあてについて知る。 ○碑文の暗唱や多胡碑カルタに取り組む。 ●今後の学習予定を示し、何をどのように学習するか確認する。 ●碑文の暗唱や意味の理解、上野三碑カルタを通して多胡碑に関心をもたせるようにする。
	2	○多胡碑記念館に行き際、自分の見学のめあてを考えると、多胡碑への興味や関心を高める。	○多胡碑についての基本事項をクイズやワークシートを使ってまとめ、多胡碑記念館見学のめあてを考える。 ●多胡碑についての基本事項は副読本を使ってまとめる。 ●多胡碑についてクイズやワークシートに取り組んだり、副読本で調べたりする中から、自分が興味をもったことや詳しく知りたいことをもとにめあてを考えるよう伝える。
5	3	○多胡碑記念館に行き、多胡碑についての理解を深め、多胡碑を紹介するためのテーマを決める。	○多胡碑を見学したり説明を受けたりすることを通して、興味をもったことをもとに、多胡碑を紹介するためのテーマを考える。 ●多胡碑のすばらしさをより多くの人に知ってもらいたいことを目的として、まずは4年生に向けて発表することを伝える。 ●多胡碑をどのように紹介すれば興味をもってもらえるかを考え、テーマを決定する。
	4	【情報の収集①】 ○多胡碑を紹介するために、自分が選んだテーマについての調べ学習を行い、資料を集める。	○テーマごとのグループの中で、調べ学習の計画や担当を決め、自分が担当したことを調べる。 ●自分たちのテーマについて、何を、どのような形で伝えたいかを考えてみるか、自分が詳しく調べたいことは何かを考えながら計画や担当を決めるよう伝える。 ●調べ学習では、インターネット、東国文化副読本、上野三碑(小学生用)を使用する。
6	6	【整理・分析①】 ○多胡碑について調べたことを、4年生によりよく伝えるようにまとめる。	○4年生に向けての発表資料をグループワークシートでまとめ、発表原稿を作成する。 ●発表を聞くのが4年生であることを考え、発表や掲示資料に使用する言葉をやわらかいものに交換するようにし、相手意識をもてるようにする。 ●調べられないことや曖昧なことは、次時の中間発表会で学芸員の方に質問したり確認したりするため、空欄のままよいことを伝える。
	7	○中間発表会を学芸員の方に見てもらい、発表内容に間違いがないかを確認してもらったり、個人やグループで調べられなかったことを詳しく教えてもらったりして、自分たちの発表内容の修正に生かす。	○中間発表会を開き、歴史博物館の学芸員の方に発表内容の確認をしてもらったりアドバイスをもらったりする。 ●調べられなかったことは事前に学芸員の方に伝えておく。 ●発表は本番と同様、各教室でタブレットをモニターにつないで行う。 ●自分が発表しないときは他のグループの発表を聞き、よい点や改善点を記入しながら待つ。
7	8	○発表資料や原稿を修正し、発表練習を通してよりよい発表内容に仕上げます。	○発表資料や中間発表会でもらったアドバイスを参考に、原稿を修正し、本番に向けての発表練習を行う。 ●発表練習をする際には、発表の様子を動画で撮影し、自分たちのグループの発表を客観的に見て、改善できるような発表を行う。また、別のグループと見合い、よい点や改善点を交流するようになる。
	9	【まとめ・表現①】 ○多胡碑について調べたことを4年生に向けて発表し、多胡碑に興味をもってもらえる。	○多胡碑について調べ、まとめたことを4年生に向けて発表する。 ●自分が発表しないときは、4年生の様子をよく観察し、反応がうすかったところや分りづかったところを記入しながら待つ。 ●国語の「町じまんをすいせんよう」で学習した、人を引きつける発表のポイントを意識しながら発表させる。
8	10	○発表の成果と課題から、多胡碑を吉井小の全児童に知ってもらったり興味をもってもらったりするための活動を考えることで、地域貢献の意識を高める。	○発表の成果と課題から、多胡碑をより多くの人に知ってもらうために自分たちができることを考え、まとめる。 ●4年生に発表したことの成果と課題から、多胡碑をより多くの人に知ってもらうために自分たちができることを考え、まとめる。 ●個人で考えたことをグループごとに話し合い、全体に共有する。 ●ここでの考えが、自分たちの2学期の総合的活動につながることを伝える。
	11	【課題の設定②】 ○多胡碑のすばらしさを吉井小学校の全児童に伝えるための、クイズラリーの方法を理解する。	○吉井小学校の全児童に多胡碑に興味をもってもらったり、知ってもらったりするために、自分たちができることを考える。 ●クイズラリーについては、自分が以前に体験したのや、インターネットでの調べ学習を参考に考える。 ●クイズラリーの目的が、クイズを通して多胡碑に興味をもってもらったり、展示物や掲示物を観ることにいることをつなげる。
9	12	【情報の収集②】 ○クイズの問題や資料について話し合い、よりよいクイズにできるようにする。	○追跡する①のグループでクイズの問題や資料について話し合い、役割分担を決める。 ●問題は全員が解けるような難易度を設定することや、展示してある資料を調べる方法を考える。 ●役割はクイズ担当、資料担当、解答用紙担当、合格証担当とする。
	13	○クイズの問題や資料を交流することで、グループ内で作成した、まとめの方法を理解する。	○クイズラリーの問題や資料をグループワークシートで作成し、問題の難易度や資料が適切であるかを、グループ内や他グループと交流する。 ●前回話し合ったことと、自分が担当する問題や資料を作成し、グループ内で交流する。 ●早く完成したグループは、他グループと交流を行う。
10	14	【整理・分析②】 ○クイズラリーを設営、実践することで内容を確認し、よい点や改善点をまとめる。	○自分の担当する箇所の設営を行い、クイズラリーを実際に行うことで、よい点や改善点をまとめ、内容を確認する。 ●多胡碑記念館から多胡碑の模型を借り、校内に多胡碑コーナーを設ける。発表が終わった後もコーナーに掲示物を残し、いつでも見られるようにする。 ●全員がクイズラリーを実践し、よい点と改善点をまとめる。
	15	○クイズラリーの手直しを行い、各学年が楽しみながら多胡碑を知ることができるように内容にする。	○前時の改善点をもとに、担当箇所の手直しを行う。 ●全員がクイズラリーを実践し、改善点が修正されているかを確認する。 ●クイズの内容だけでなく、各学年の立場に立って、掲示の位置や場所が適切であるかを確認することを伝える。
10	16	【まとめ・表現②】 ○クイズラリーの成果と課題から、多胡碑をより多くの人に知ってもらったり、興味をもってもらったりするための活動を考えることで地域貢献の意識を高める。	○クイズラリーの成果と課題から、多胡碑をより多くの人に知ってもらうために自分たちができることを考え、まとめる。 ●クイズラリーは、20分休みと昼休みを使って行う。人数に偏りが出ないように、月曜日1年生として順番に行い、金曜日6年生とする。 ●クイズラリーを行ったことの成果と課題から、多胡碑や上野三碑をより多くの人に知ってもらうために自分たちができることを考え、まとめる。
	17	【課題の設定③】 ○多胡碑のすばらしさをより多くの人に知ってもらうための、PR動画作成のポイントを確認する。	○NHK for schoolの「しまっ！情報活用スキルアップ」を視聴し、PR動画作成のポイントを確認する。 ●NHK for schoolの「しまっ！情報活用スキルアップ」のポイントだけでなく、国語の意見文で学習した頭括型、尾括型、総括型についてもふれる。 ●PR動画作成に当たって、必要なグループはアンケートやインタビューも行うことを選択肢として示す。 ●事前に学活等で、ネットリテラシー向上動画を視聴し、ICTの活用やインターネットの活用についての注意事項を学習しておく。
11	18	【情報の収集③】 ○伝えたいことがしっかりと伝わるように、PR動画作成のための絵コンテを決定する。	○PR動画作成のための絵コンテを、グループで話し合って完成させる。 ●PR動画の目的は、「多胡碑のすばらしさをより多くの人に知ってもらうこと」であり、1分程度とし、ねらいや見る人が分かるようにという視点で絵コンテを考え確認し合う。 ●写真も動画も1つだけでなく、角度や方向、距離を変えていくつか撮っておくよう伝える。 ●一般の来館者もいることを伝え、撮影時に映り込まないよう伝える。
	19	○多胡碑記念館に行き、動画編集のための素材を集める。	○多胡碑記念館に行き、写真や動画を撮影する。 ●動画は全員で編集し、よりよくできた動画をグループの発表に使用する。 ●写真や映像については「見やすく、文字は「分りやすく、短く」、音楽は「効果的に」を意識させる。
11	20	【整理・分析③】 ○グループごとにPR動画の意図がよりよく伝わるように編集する。	○iMovieを使用してPR動画を編集する。 ●動画の視聴する際には、代表グループの発表者に、「一番伝えたいことは何か」「見る人を引きつける工夫は何か」を発表させる。 ●アドバイスの際は、動画の技術に注目するのではなく、伝えたいことが伝わってくるかを中心に考えさせる。
	21	○他のグループの動画を視聴し、よかったですことや改善点を伝える。	○他のグループの動画を視聴し、よかったですことや改善点を伝える。 ●アドバイスの1時間目は、アドバイスの視点やポイントを確認しながら行うため、1班のみのアドバイスとし、2時間目は2班ずつアドバイスをします。 ●伝えたい内容が含まれているか、内容がきちんと伝わるかという視点で動画を確認し合う。
11	22	○他のグループのPR動画を視聴し、修正点や改善案を交流することで、多胡碑のすばらしさをよりよく伝えるようにするための考えを深める。	○他のグループの動画を視聴し、よりよい動画にするための修正点や改善案を交流する。 ●前時までの話し合いをもとに、自分たちが伝えたいことが、効果的に視聴者に伝わるかを中心に考え、動画を修正する。 ●今までの成果を自覚できるように、多胡碑記念館の職員の方や保護者にも参加してもらい、動画を見た感想を開ける場を設ける。
	23	○完成した動画をクラスで見合い、感想を交流することでPR動画作成の成果を自覚し、地域貢献の達成感を味わう。	○完成した動画をクラスで見合い、修正前の動画と比較して成果を確認する。 ●この単元の感想だけでなく、学習を通して気付いた吉井町のすばらしさや、吉井町のために自分たちができることをワークシートにまとめる。
まとめ	24	【まとめ・表現③】 ○単元全体の学習を振り返り、吉井町のために自分ができることを考えることで、地域貢献の意識を高める。	○単元全体の学習を振り返り、吉井町のために自分たちができることを考えることで、地域貢献の意識を高める。 ●これまでの授業を振り返り、吉井町と自分たちができていることについて考えをまとめている。(他)【ワークシート】

(5) 総合的な学習の時間学年計画(6学年)

吉井小学校 6年 総合的な学習の時間 「吉井町魅力度UP大作戦」単元構想

指導期間:4月～7月			指導時数 20/70時間			
単元の目標 ○「吉井町」の魅力度を上げるための作戦を考え、PRすることができる。						
過程	月	時間	【小テーマ】 学習活動のねらい	○ 主な学習活動	●指導上の留意点	評価〈評価の観点〉【方法】
つかむ	4	1	【単元の課題を把握する】 ○6年生の総合的な学習の内容を知り、見通しをもつことができる。 ○過年度の学習を振り返り、PRに向けての見通しをもつことができる。	○6年生の総合学習のめあてについて知る。	●今後の学習予定表を示し、何をどのように学習するのか確認する。 ●具体的なPRの方法をいくつか提示する。 ※ポスター、パンフレット、リーフレット、PR動画、ツアーガイド、ガイドマップ、郷土料理、イベント企画・・・等	・今後何を学習していくのか、見通しをもつことができる。 〈態〉【観察・発言】
		2		○吉井町の自然、物産、史跡、施設、多胡碑等、過年度に触れた内容を確認する。	●個人の学習カードに、吉井町についての情報を分類させる。	・吉井町を分類、整理することができる。〈思〉【学習カード】
追究する①	4	3	【テーマ検討】 ○PRテーマを決定することができる。	○どのようなテーマで魅力度を上げられそうか考える。	●吉井町をPRするためには、何を紹介すればよいか、その対象を考えさせる。 ●対象を限定して紹介しても、複数の対象を合わせて総合的に紹介してもよいことにする。	・どのテーマで学習を進めるか、考え、決定することができる。 〈思〉【観察・学習カード】
		4		○希望するテーマを決定し、グループピングする。		
追究する①	5	5	【情報の収集】 ○PRテーマ毎に、PRに必要な情報を集めることができる。	○過年度に学習した内容から情報を収集する。 ○過年度に学習した内容では足りない部分を調べる。	●紹介の対象となるものについて、その理由を明確にさせる。	・PRするために必要な情報を集めることができる。 〈知〉【観察・学習カード】
		6				
追究する②	6	7	【PRする】 ○具体的なPR方法を定めることができる。	○グループ毎にどのようなPR方法が適当か考える。	●どこで、誰に向けてPRしたいのか、相手意識・目的意識を持たせる。 ●できる限り、外部に向けての発信を目指させたい。	・適切なPR方法を考えることができる。 〈思〉【観察・学習カード】
		8				
		9				
		10	○グループのメンバーと協力しながら、PRの準備を進めることができる。	○グループ毎に決めた方法で吉井町をPRできるように、準備を進める。	●1人1タブレットを活用させる。(写真・動画撮影等) ●現地取材等がある場合、できる限り自分たちでアポイントをとらせるようにする。 ●多種多様なPRを認める。 ●「吉井町に来てみたい」「吉井町は楽しい」と思えるか、繰り返し問いかける。 ●毎時間の振り返りにおいて、「次回」を意識させる。	・グループのメンバーで協力しながら活動することができる。 〈態〉【観察・学習カード】 ・よりよい方法を探ることができる。 〈思〉【観察・学習カード】 ・見通しをもって活動しようとしている。〈態〉【観察・学習カード】
		11				
		12				
まとめ	7	13				
		14				
		15	○よりよい資料となるよう、互いにPR資料を評価し合うことができる。	○中間発表を行い、互いに評価し合う。	●「よりよいPR資料にするためには」という視点で評価し合わせる。 ●1人1タブレットを活用する。	・互いの改善点を見つけようとしている。〈思〉【評価カード、学習カード】
		16				
まとめ	7	17	○他者からの評価をもとに、PR資料を仕上げるすることができる。	○中間発表をもとに、PR資料に加除修正をする。	●全ての評価から加除修正するのではなく、必要な評価を選ぶようにさせる。	・他者からの評価をもとに、よりよいPR資料にしようとするすることができる。〈知〉【観察・学習カード】
		18				
		19	【発表・振り返り】 ○PRを発信する。 ○学習を振り返り、今後の「吉井町」について考えることができる。	○完成したPRを発表する。 ①外部に向けて発信する。 ②学習参観で(※2学期以降)、保護者に向けて発表する。 ○学習を振り返り、自己評価する。	●吉井町内の可能な施設等にPRを置いていただけるように依頼しておく。(できれば、自分たちで依頼させる) ●保護者に向けての発表にあたる時間は、2学期以降に設定する。 ●振り返りにおいては、今後の「吉井町」や今後の「吉井町の関わり」について意識させる。	・自信をもって吉井町をPRすることができている。〈知〉【観察・学習カード】 ・学習をしっかり振り返っている。〈思〉【観察・学習カード】
		20				

# 【1年 生活科：「がっこう だいすき みんなでつうがくろをあるこう」】

## 1 目標

学校探検や通学路探検を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々と自分との関わりを見付け、学校生活を支えている人々や友達とのことが分かるとともに、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全に登下校をしたりすることができるようにする。

## 2 活用する地域素材、地域人材

吉井町にある施設や店舗(安心の家)、交通標識、交通指導員、旗振りの保護者

## 3 実践の概要

### (1) であう

登下校に慣れ、児童の安全への意識が低くなっていく時期であることに留意し、通学路について改めて振り返ることができるように配慮した。まず、実際の通学路にある交通標識等の写真を提示しながら、通学路にある安全を守るためのものについて確認し、話し合った。写真を見ると、「僕の家近くの道にもあるよ!」、「これは〇〇という意味だよ!」等と、気付きの姿や嬉しそうに話す姿が多く見られた。次に、毎朝学校の周りで旗振りをする人の写真を見て、通学路の安全を守る人について知っていることやどんな思いで旗振りをしているのかを考え、話し合った。「私達が事故に遭わないために、旗振りをしてきている。」といった考えが多く出た。うまく言葉に表せない児童もハンドサインで共感する姿が見られた。そして、自分達の通学路の安全を守ってくれている人やものとの関わりを深めることができるよう、実際に皆で通学路を歩くことを課題と決めた。その後、通学路を歩く計画を立てる際、これまでの学校探検と関連付けながらルールやマナーについて話し合った。また、何を見付け、誰に出会うのかなどの活動の目的を再確認することにより、実際に歩く活動への意欲を高められるよう配慮した。

### (2) はたらきかける

具体的な活動の1つとして、学校周辺の通学路の1コースを集団で歩いた。横断歩道や踏切などを正しく使えるように、その場その場で安全な歩き方の指導を行うようにした。活動の中で、事前に見た交通標識等を教師や友達に伝える姿や、出会う人に挨拶を進んでする姿があり、賞賛すると共に、教師からも児童が周りの交通標識や施設に関心をもって気付くことができるよう声掛けをした。また、交通安全教室で、警察官や地域の交通指導員の方から話を聞く機会を設けた。その中で、安全な歩き方等自分の命を守る方法だけでなく、安全を守ってくれている人の子どもたちへの思いも伝えてもらい、子ども達は熱心に耳を傾けていた。

### (3) ふりかえる

通学路探検で見付けたものや人を、絵や言葉でカードに表し、児童一人一人の思いや気付きを共有する場を設けた。その中で、友達の思いや気付きを見たり聞いたりすることにより、今まで気付かなかった通学路での施設や安全を支えている人々の様子に気付いたり、共感したりする姿が見られた。振り返りのワークシートでは、私達が安全に下校できるように、安全を守ってくれるものや、守ってくれる人がいるという気付きや、これから気をつけて歩いていきたいといった思いが書かれていた。

## 4 成果と課題

- 「つかむ」段階で、実際の通学路にある安全を守るものや人の写真を提示したことで子ども達の通学路への関心が高まり、実際に歩く場面での意欲につながった。
- 安全を守る人の思いを知り、その人達への感謝の気持ちやこれから安全に気をつけて歩いていきたいという気持ちを深めるための授業の中での手立てや、授業後の取組の工夫について考えていきたい。

## 【2年 生活科：「わくわくどきどきまちたんけん」】

### 1 目標

自分たちの住む地域を探検する活動を通して、地域の場所と自分との関わりを見付け、地域にはさまざまな場所があり、さまざまな人がいることに気付くとともに、地域の場所や人に親しみを持ち、適切に接したり、安全に気を付けて生活したりしようとすることができるようにする。

### 2 活用する地域素材、地域人材

吉井駅、消防署、交番、給食センター、郵便局、吉井保健所、吉井幼稚園、吉井支所、玄太寺、群馬銀行、魚健、花広場、ほりこし商店、陽気軒、風月堂、大沢川、ボランティアの保護者



### 3 実践の概要

#### (1) であう

「吉井町でおすすめの場所はどこか」という観点で、子ども達に聞いた。その際、子ども達が多くの場所に気付けるように、「お店」「みんなが使うところ(施設)」「公園」など具体的な視点を示した。すると、「うおけん」「図書館」「吉井中央公園」など身近な場所を挙げる事ができた。しかし、「お店」については、町中にある小さな商店を知っているのは数名で、大型商業施設や隣の市町村にある店を挙げる児童もあり、自動車で移動し、近隣の大型店で買い物をしている各家庭の実態が垣間見えた。

その後、児童の行ってみたい場所とその理由についてアンケートを取り、方面ごとにグルーピングをした。そして、改めて行きたい場所をグループで決め、グループごとにルールや質問を考えた。

※マナーについての学習は道徳で、質問の仕方や挨拶の仕方は国語の授業で扱った。

#### (2) はたらきかける

1グループに1名保護者の方に引率をしてもらい、まちたんけんを行った。担任は方面を分担し、子どもの様子を見ながら巡回をした。また、子ども達は一人一台のタブレット端末を持って出かけ、発見したことやものを写真に撮りながら探検を行った。子ども達は、行く先々で様々な発見をしながら生き生きと探検している様子がうかがえた。また、訪問先で礼儀正しくあいさつをしたり、「写真を撮らせてください。」などと許可を得てから写真を撮ったりするなど事前に学習したことをもとに行動する事ができた。

#### (3) ふりかえる

探検後に付箋に発見したことを書いて、グループの地図に貼った。そして、一人一人が活躍できるようにグループ内で発表の担当場所を決め、「もの」「人」「聞いたこと」と視点を絞って、クラスの子に伝えたいことを整理した。その後、それをもとに、発表原稿を作り、原稿に合うよう写真を選んだ。子ども達は訪問先のことだけでなく、道中で見つけた面白い植物や生き物のことなどたくさんのお宝を発見しており、探検が充実していたことがうかがえた。発表後の感想には、「たくさんのお店があることがわかった。」「もっと町のことを知りたい。」などと書かれており、町のことに興味をもつことができた児童が増えたことがわかった。また、「吉井町には優しい人が多くてうれしい。」など地域の人とふれ合うことで、町に対しての愛着が増している様子がうかがえた。

### 4 成果と課題

○探検したい場所についてアンケートをとり、方面ごとにグルーピングしたことで、児童の興味関心が高まった。そのため、つかむ場面において道順を決めたり、グループの約束を決めたりする際や当日の町探検に行く際など全体を通して、意欲的に取り組む姿が多く見られた。

○タブレット端末を一人一台もって探検に出かけることで、多くの児童が主体的に探検することができ、その後の発表会に向けての準備でも意欲的に活動することができた。

●発表会を前提として単元構想を組んだが、「町のことや町の人を知りたい」という目標であったので、撮ってきた写真を違う班の児童に見せ合い、そこで新たに発見したことを聞くだけでもよかった。

## 【3年 総合的な学習の時間：「吉井っていいな」】

### 1 目標

吉井かるたや社会科の学習を通して、自分たちの住む地域の産業について調べ、農作物を栽培し、農作物をつかったレシピを考えたり、よさを伝えるポスターを作って物産センターに掲示したりする活動を通して、地域の魅力を知り、地域に愛着をもつことができる。

### 2 活用する地域素材、地域人材

吉井学校給食センター、なめこの里、吉井町物産センター、農園ボランティア（新井敏さん）



### 3 実践の概要

#### (1) つかむ

農園ボランティアの新井敏さんとの最初の出会いとして「きゅうり作り名人に聞こう」という会を学年で設けた。前もって質問を考え、グループごとに順に対面で質問をした。

「なぜ土がふかふかなんですか」「どうやったらきゅうりがよく成長しますか」といった12の質問に新井さんは前もって図入りで分かりやすい資料を用意してくださり、誠実に一つ一つ答えてくださった。会の最後には、一人一人が肘タッチをして、感謝の気持ちや親しみを伝えた。お礼の手紙も喜んで書いた。「いそがしい中、きゅうりの本を作ってください、ありがとうございます」「あらい先生とみんなとやるので安心です」「野さいが大すきなので、きゅうりをうえるのが楽しみです」「わたしもきゅうりをそだてています。もらった本やおぼえていることをもとにかんさつしてみようと思います」全ての手紙から、活動への意欲や感謝、親しみなどが伝わってきた。

#### (2) 追究する

出会いの会の後、新井さんに準備や指導をしていただき、きゅうり苗を植えた。マルチシートやマルチシートに穴を開ける道具、ネットなど用意していただき、植え方も具体的に教えてくださった。限られた数の苗であったが、仕事を分担し、全員が植える体験に関わった。「あなを開ける時は体重をのせる」「まいた水はすぐなくなった」「たくさんの水がひつようのでびっくりした」「教えてもらったので、よくできた」この体験で子どもたちは多くのことを学んだ。支柱や苗、穴開けの道具、新井さんの服装など絵でも細やかに気付いたことを描いた。その後も、水やりの世話を続けながら、成長を見届けた。発見や感激を絵や文、マンガなど思い思いに表現した。

#### (3) まとめる

収穫の前にきゅうりを使った「我が家のレシピ」をまとめた。サラダやぬか漬け、みそマヨネーズ、きゅうりもみなど多様なレシピを絵や文、まんが、ランキング形式などで楽しく表せた。互いに読みあい、交流も深めた。最後のまとめとして、吉井のきゅうりのよさを伝えるポスター作りに取り組んだ。「新鮮でおいしいこと」「気持ちがこもっていること」「がんばって作っていること」子どもたちが考えたそうした言葉をキャッチフレーズとし、みずみずしいきゅうりや農家の方の絵など思い思いの絵を寄せ、1枚のポスターに仕上げた。このポスターを吉井物産センターにお願いし、掲示していただいた。

### 4 成果と課題

- 出会いの場として「質問する会」を設けたことで新井さんへの親しみや愛着、きゅうり栽培への関心意欲が高まった。そのため、つかむ場面において、率先して水やり当番をしたり、成長の様子を楽しく観察して表現したりするなど全体を通して、意欲的に取り組む姿が多く見られた。
- 物産センターに来るお客さんに吉井のきゅうりのよさを伝えるという目的を明確にしたため、意欲的に活動のまとめに取り組めた。
- 限られた時間内での活動であったため、苗植えから収穫までの世話を新井様が引き受けてくださった。その段階でももう少し関わると更によかった。

## 【4年 総合的な学習の時間：「吉井発見～昔の吉井にタイムスリップ～」】

### 1 目標

「火打ちがね」について調べ、昔の吉井町とのつながりに気づくことができる。

### 2 活用する地域素材、地域人材

吉井郷土資料館、吉井郷土資料館職員、  
吉井かるた、  
吉井地域の方（長谷川さん、若林さん）



### 3 実践の概要

#### (1) つかむ

総合の授業の内容を知るために、吉井かるたを体験し、昔の生活をより身近なものに感じることからスタートした。吉井かるたにふれていく中で、児童は「ぬきんだ技術の火打ちがね」に着目し、吉井町の特産品である火打ちがねについて興味をもった。かるたの中で謳われる「ぬきんだ技術」、「火打ちがね」とは何かについて考え、「火打ちがね」をなかなか想像しづらいことから、吉井郷土資料館から火打ちがねを借用し、実際に火打ちがねを体験することで、興味・関心が高まった。また実際に体験することで、新たな課題をもち、より深い調べ学習につながった。

#### (2) 追究する①

ウェビングマップを用いて児童の多様な意見を整理した。その中で関心をもったテーマごとに追究する班を編制し、調べ学習を行った。

インターネットや書籍を活用して、吉井町の名産品「火打ちがね」について調べ始めたが、十分に調べられないことが多いので、より深く知るために、詳しい人に話を聞く「情報の収集」の方法にも着目した。

#### (3) 追究する②

吉井地域の方（長谷川さん、若林さん）にお願いして、火打ちがねの使い方や特徴、名産品になった歴史的背景などについて講話をしてもらった。これまでにインターネット等で調べていて、疑問に思ったことや分からなかったことについて、講師の先生に質問し確認することができ、火打ちがねについて理解が深まった。

#### (4) まとめる

今までインターネットや書籍等で調べたことや講話での説明、質疑応答などを生かして自分なりにまとめた。まとめたことをもちより、班ごとに紙面にまとめることにした。紙面で伝えたいことの担当を決め、効果的に伝えるにはどうすればいいかを国語の学習を生かしながら考え作成した。

### 4 成果と課題

○「国語：リーフレットで知らせよう」で学習した効果的に伝えるための書き方や、他教科での学習を生かしながら紙面にまとめることができた。

○自分たちで調べた内容で、疑問に思ったことや分からなかったことについて、有識者に質問できる時間が用意できたことは、まとめを進めるためには有意義な時間になった。

●吉井町の特産品としての火打ちがねについて記す文献を探すことは難しく、インターネット等に紹介されている内容も乏しいため、調べ学習を進めることは困難だった。



(上毛新聞 2021年7月7日付)

## 【5年 総合的な学習の時間：「広げよう、伝えよう 多胡碑の魅力」】

### 1 目標

「多胡碑」を核として、自分たちの住む地域の歴史や産業、文化財について調べ、拓本や碑文ラリーを体験し、PRする活動を通して、地域と自分の在り方について考えることができる。

### 2 活用する地域素材、地域人材

多胡碑記念館、群馬歴史博物館、上野三碑カルタ、多胡碑記念館職員、群馬歴史博物館学芸員

### 3 実践の概要

#### (1) つかむ・追究する①

学習のスタートは多胡碑に対して「難しいもの」というイメージをもたせないよう、クイズや多胡碑かるたを使って、「身近なもの」「魅力あるもの」というイメージをもてるようにした。また、副読本を使って多胡碑の基本事項をまとめ、碑文の暗唱にも楽しみながら取り組んだ。

この学習は「多胡碑や上野三碑のすばらしさをより多くの人に知ってもらおう」ことを目的にした学習であるが、まずは自分たちが詳しく知らなければ紹介できないので、実物を見たり、より詳しい内容を知ったりするために多胡碑記念館に行った。見学をしたり説明を受けたりする中で自分が興味をもったことをもとに、追究するテーマを考えた。



#### (2) 追究する②

多胡碑や上野三碑のすばらしさをより多くの人に知ってもらうために、まずは身近な吉井小学校の4年生に向けて発表するという目的意識と相手意識を明確にして、まとめや発表の仕方を考えた。発表の資料作りでは全員が積極的に資料作りに関われるよう、各グループで役割分担を工夫した。発表資料の作成ではグーグルスライドを使用した。グーグルスライドは、同じデータをグループ全員が同時編集することができるので、グループ内で積極的に意見交換やアドバイスをしながら進めることができた。

出来上がった資料について中間発表を行った。その際、群馬県立歴史博物館の飯田学芸員さんに講師として来校していただき、発表内容に間違いはないかを確認してもらったり、調べられなかったことを詳しく教えてもらったりした。専門の方にアドバイスをいただけたことや学校外の方に見てもらおうことで、より本番に近い形で、よい緊張感が得られた。



#### (3) まとめる

中間発表での飯田学芸員さんからのアドバイスを生かして、発表資料を修正したり、作り直したりした。発表当日は、緊張しながらもタブレットを効果的に使いながら、4年生に向けて発表することができた。発表後は1学期の活動を振り返り、多胡碑のすばらしさをより多くの人に知ってもらうために自分たちができることを考えた。ポスターの掲示や、PR動画やパンフレットの作成、クイズラリーなどの意見が出ている。

### 4 成果と課題

- 「国語：町じまんをすいせんしよう、ポスターを作ろう」や、各授業での意見交換の仕方等、他教科での学習を生かしながら発表資料や原稿作りを進めることができた。
- グーグルスライドは同じデータを複数の人が同時編集できるため、グループ内で役割分担をしたり、意見交換をしたりしながら作業することができた。
- 中間発表では、群馬歴史博物館の飯田学芸員さんに来ていただいたことで、詳しいアドバイスをいただけたら、より本番に近い緊張感をもった発表にしたりすることができた。
- グーグルスライドを使ってまとめたが、途中でデータが消えてしまったり、内容よりも写真や背景、文字などの見た目にこだわってしまったりするなど、グループごとの進捗状況に差が出てしまったりした。

## 【6年 総合的な学習の時間：「吉井町魅力度UP大作戦」】

### 1 目標

「吉井町」の魅力度を上げるための作戦を考え、PRすることができる。

### 2 活用する地域素材、地域人材

吉井町にある施設、店舗、自然、歴史、名産など

### 3 実践の概要

#### (1) つかむ・追究する①

本来であれば、過年度までの「生活・総合」での学習の積み上げをもとにして、吉井町の魅力度を上げる方法を考えPR資料を作成していく計画となっているが、本年度より設定された教材のため、過年度の積み上げがほとんどない。そこで、まず「吉井町のよさや、吉井町で魅力を感じる点」を考え、分類した。児童から挙げられた「よさ」を【自然・歴史・名産・施設】の4カテゴリーに分類し、「自分なら、どのカテゴリーで吉井町の魅力度を上げたいか」考え、同テーマとなりそうな児童とグループを組んだ。ちなみに、家族からも情報を得るよう促したが、家族からは「吉井町によい所は少ない」との反応が多数だった。

続いて、グループ毎に「何をどのような方法でPRするか」考え、学習の見通しを持った。また、過年度の積み上げがほとんどないため、PRに必要な素材を集めたり、調べ学習を進めたりした。素材集めの際に、施設等を訪れる際のアポイントメントや撮影許可等も、自分たちで行った。

#### (2) 追究する②

「追究する①」で集めたり調べたりした素材を使って、どのようにPRしていくか具体的な方法を考えた。また、「追究する②」でも、併行して素材集めを続けた。各グループで決定したPRに向け、PR資料作りをした。PR資料作りでは、全員が積極的に資料作りに関われるよう、各グループで役割分担を工夫した。さらに、積極的に意見交換をしながら進めることで、グループ内の協働を図った。また、PR資料のレイアウトやデザインを考えたり、動画編集を行ったりと、効果的にタブレットを使用することができた。ただし、動画編集や画像編集においては、タブレットの持ち帰りが認められていなかったために、別のデジタルカメラ等で撮影した映像・画像データを学校のPCに保存し、PC画面上の映像・画像をタブレットで撮影して編集するという、大変迂遠な方法であった。

出来上がったPR資料について中間発表を行った。それまで自グループでの評価をもとに作成してきたPR資料を他グループの児童とも見合い、「よりよい資料となるように」という観点でアドバイスし合うことで、クラス全体での協働を図った。

#### (3) まとめる

中間発表での他グループからのアドバイスを生かして、PR資料を修正したり、作り直したりした。出来上がったPR資料を使って、2学期以降の学習参観で保護者に向けて吉井町をPRする。



### 4 成果と課題

- 【具体的なめあてを立てる → 作業 → その時間はどうだったか振り返り、次の時間は「何をどのくらいするか」計画まで立てる】というサイクルが身に付き、自分たちで計画的に学習を進めることができるようになってきた。
- グループ内で効果的に役割分担をしたり、効果的に意見交換をしたりしながら作業を繰り返したことで、「皆で学習を進めている」という協働の雰囲気を作れた。
- 「国語：パンフレット作り」や「図工：よい歯のポスター」、各授業での意見交換の仕方等、他教科での学習を生かしながらPR資料作りを進めることができた。
- 中間発表では、タブレットを使用することで、全児童からの評価・アドバイスを得ることができた。
- グループ毎の進捗状況に差が出てしまう。

生活科学学習指導案 2年 「もっとなかよしまちたんけん」 2年2組 指導者 湯本 裕貴

I 単元の目標

単元の目標	身に付けさせる資質・能力
○地域で働いている人々と関わる活動を通して、地域の人々について考えることができ、地域の人々の地域に寄せる思いや自分たちの生活との関わり気付いたり、地域の人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりしようとすることができるようにする。	<b>【知識及び技能】</b> ○地域で働いている人々と関わる活動を通して、地域の人々の地域に寄せる思いや自分たちの生活との関わり気付く。 <b>【思考力・判断力・表現力等】</b> ○地域で働いている人々と関わる活動を通して、地域の人々と自分たちの生活との関わりを考える。 <b>【学びに向かう力・人間性等】</b> ○地域で働いている人々と関わる活動を通して、地域の人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

II 児童の実態と指導方針

児童の実態	指導方針
<b>【知識及び技能】</b> ・多くの児童は、日常生活や1学期の町探検を通して、自分の地域には様々な場所があることに気付いている。しかし、自分たちの生活が地域の人々と関わっていることや、地域の人々の地域に寄せる思いがあることに気付いている児童は少ない。 ・1学期の町探検では、収集した情報を整理することを通して、新たな疑問を見付けたり、新たなことに気付いたりする児童は少なかった。	・地域の人々の地域に寄せる思いに視点を向けさせられるように、地域の人々の苦労や思いに迫る写真や動画を提示する。 ・新たな気付きが生まれるように、探検に行く前に、その場所ではどんな仕事をしているのかを予想する活動を取り入れる。
<b>【思考力・判断力・表現力等】</b> ・友だちの気付きや考えを共有する場面では「いいね！」と声を合わせ、友だちの意見に耳を傾けることはできる。一方で、自分の意見との共通点や相違点を見付けたり、友だちの意見に付け足ししたりすることに困難がある。 ・1学期の探検活動の情報の発信・伝達の場面では、タブレットの写真のスライドさせながら説明することに、課題を抱える児童が見られた。	・児童が、自分の意見との相違点を見付けたり、友だちの意見に付け足しをしたりすることができるように、話型やハンドサインを活用し、比較したり、関連付けたりする活動を取り入れる。 ・情報の発信・伝達の場面で、気付いたことを整理しながら発表できるように、地域の人々について探検したことを模造紙で整理する活動を取り入れる。
<b>【学びに向かう力・人間性等】</b> ・1学期の町探検では、個別に支援を要する児童が数名いたが、多くの児童が意欲的に探検活動に取り組み、地域の様々なものに関心を向けることができた。しかし、地域の人々と積極的に関わろうとする児童は多く見られず、親しみや愛着をもつ児童は少なかった。	・1学期の町探検で見付けたものや場所を絵地図で整理し、ものや場所に比べて地域の人々の写真が少ないことを確認し、地域の人々と関わりたいという思いや願いを膨らませる。 ・地域の人々と深く関わり親しみや愛着をもつことができるように、人に視点を当てた探検活動を取り入れる。

III 評価基準

<b>【知識・技能】</b> ○地域で働いている人々と関わる活動を通して、地域の人々の地域に寄せる思いや自分たちの生活との関わり気付いている。
<b>【思考・判断・表現】</b> ○地域で働いている人々と関わる活動を通して、地域の人々と自分たちの生活との関わりを考えることができる。
<b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○地域で働いている人々と関わる活動を通して、地域の人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。

#### IV 単元構想

指導期間：11月～12月			指導時数 14/105時間	学年のテーマ：もつとなかよしまちたんけん		
単元の目標			○地域で働いている人々に関わる活動を通して、地域の人々について考えることができ、地域の人々の地域に寄せる思いや自分たちの生活との関わりに気付いたり、地域の人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりしようとするができるようにする。			
過程	月	時間	【小テーマ】 学習活動のねらい	○ 主な学習活動	● 指導上の留意点	◇指導に生かす評価 ◆ 評価に用いる評価 <評価の観点> 【方法】
であう	11	1	【思いや願いをもつ】 ○1学期の町探検を振り返る活動を通して、地域の人々に関わりたという思いや願いをもつ。	○1学期の町探検を振り返り、探検に行きたい場所を決める。	●1学期の町探検の写真を提示し、どんな人がどんな仕事をしているのかを想像させることで、吉井町で働く人々と関わりたいという思いや願いを膨らませられるようにする。 ●1学期の町探検の時より思考が深められるように春の探検先の中から、今回の探検先を決めるようにする。	◇思いや願いをもとに探検に行きたい場所を決めている。 <態> 【ワークシート・行動観察】
		2	○探検活動で、調べたり質問したりすることを考える。	○グループ毎に探検先の仕事内容について予想する。	●他グループの探検にも興味をもてるように、各グループで予想したことを発表し、他のグループからその予想についての意見を聞くようにする。	◇探検先の仕事内容について予想している。 <思> 【ワークシート・行動観察】
		3		○グループ毎に質問したいことを、探検計画書に記入する。	●児童の思いや願いを大切にするために、探検計画書には、地域で働く人々がどのような仕事をしているのかだけでなく、不思議に思うことを質問できるように声がけをする。	◇探検に行行って聞いてみたいことや調べたいことを決めている。 <思> 【発言・行動観察・探検計画書】
はたらきかける①	5	4	【情報の収集①】 ○安全に探検に出かけ、地域の人々と関わる。	○探検先で出会った人の許可を取りながら、タブレットで写真を撮る。	●児童が、見付けたことや質問したことを、探検後に、想起できるように、タブレットで撮影するように伝える。その際、許可を取るように伝える。	◇地域の人々と接する際、相手や場に応じたあいさつや適切な言葉遣いをしている。 <知> 【行動観察】
		5		○写真を撮る係、メモを取る係に分かれて探検をする。 ○探検に行きながら、探検計画書に質問した答えを書いていく。	●探検活動に集中して取り組むことができるように、事前に、役割分担を決めておく。 ●安全に探検に行くことができるように、グループ毎に、保護者の方に付き添ってもらう。	◇安全に探検に出かけ、地域の人々と関わろうとしている。 <態> 【行動観察】

よしい町ではたらいっている人はどんな思いではたらいっているのだろうか。

はたらきかける②	6	【情報の整理①】 ○探検で分かったことを振り返り、まとめる。	○探検活動で出会った人や分かったことを模造紙に整理する。	●児童が見付けたことを、分かりやすく整理できるように「みんなであうまのしせつ」の学習で子どもたちが整理した模造紙を教室に掲示しておく。	◇調べて分かったことを写真や絵を使ってまとめている。 <思> 【模造紙・行動観察】
	7				
	8 (本時)	【情報の整理・比較】 ○地域で働く人々の写真や動画を見て、探検先で働く人々には、様々な思いがあることに気付く。	○地域で働く人々の写真や動画を見て、地域で働く人々の思いを考える。 ○探検先で働く人々の思いを考える。	●探検先で働く人々には、様々な思いがあることに気付くように、地域で働く人々の写真や動画を提示する。 ●地域で働く人々の写真や動画と自分たちの探検先を関連付けられるような声かけを行う。	◆地域で働く人々の写真や動画を見て、探検先で働く人々には、様々な思いがあることに気付く。 <知> 【行動観察・ワークシート】
	9	【情報の収集②】 ○再び質問したいことを考える。	○再び質問したいことを考える。	●調べたいという思いをもった質問を考えられるように、前時のワークシートを振り返る活動を取り入れる。	◆地域の人々と接する際、相手や場に応じたあいさつや適切な言葉遣いをしている。 <知> 【行動観察】
	10	○相手や場に応じたあいさつや言葉遣いをして地域の人々と関わる。	○電話やファクシミリや手紙を用いて、分からないことを地域の人々に質問して答えを記入する。	●調べる方法を選ぶことができるように、電話の仕方やファクシミリ、手紙の使い方を簡単に説明する。	
	11	【情報の整理②】 ○グループで、発表する内容を整理し、調べて気付いたことをまとめる。	○再び調べて気付いたことを模造紙に付け足していく。	●新たに分かったことを追加できるように、切り貼りできるような吹き出しを用意しておく。	◆グループで、発表する内容を整理し、調べて気付いたことをまとめている。 <思> 【行動観察・模造紙】
	12				
	13	【情報の発信・伝達】 ○調べたことを発表したり、聞いたりする中で、地域の人々との関わりが分かり、地域の人々の地域に寄せる思いに気付く。	○グループ毎に、作成した模造紙を、みんなの前で発表する。 ○探検先で関わった人々と自分たちの生活との関わりを考える。	●地域の人々の思いに気付くことができるように、グループ毎の探検先で働く人々の思いを関連付けるような声かけをする。 ●地域の人々との関わりに関心することができるよう、探検で分かったことと自分たちの生活を関連付けるような声かけをする。	◆調べたことを発表したり、聞いたりする中で、地域の人々との生活の関わりが分かり、地域の人々の地域に寄せる思いに気付いている。 <知> 【模造紙・発言・ワークシート】
	14	【活動や気付き、考えについて振り返る】 ○思いや願いの実現に向けての活動を振り返り、地域とどのように関わるか思いをもつ。	○学習して分かったことや気付いたことを、ワークシートを記入する。	●探検で関わった地域の人々の苦勞や思い、地域との関わりに関心することができるよう、児童がまとめた模造紙を子どもと一緒に見返す。	◆地域で関わった人の地域に寄せる思いに触れ、これからも地域に関わろうとしている。 <態> 【模造紙・発言・ワークシート】
	ふりかえる				

**IV 本時の学習【ねらい】** 地域で活躍する人々の写真や動画を見て、探検に行った場所の人々には、様々な思いがあることに気付く。

もっと なかよし まちたんけん

よしい町ではたらく人はどんな思いではたらくているのだろうか。

㊦ よしい町で はたらく人の 思いを考えよう。

学しゅう の ながれ

㊦ たんけんしたところで、はたらく人の 思いを 考えよう。

㊦ しゃしんや えいぞうを 見て、考えよう。

㊦ もういちど、はたらく人の 思いを考えよう。

※探検で出会った人々について、グループ毎に模造紙に整理した物を教室に掲示しておく。

たいへん。だけど、おきやくさんのためにがんばろう。

おきやくさんがよろこぶすがたを見るのがうれしい。

よしい町で かつやくする〇〇さん

つらいこともあるけど、やりがいを感じるなあ。

**【身に付けさせたいこと】**

○探検活動を振り返ったり、地域で活躍する人々の写真や動画を見たりして、地域の人々には様々な思いがあることに気付くことができる。

**【表れてほしい児童の姿】（評価場面）**

○地域で活躍する人々の写真や動画を見て、探検に行った場所の人々には、様々な思いがあることに気付く。  
（観察・ワークシート）＜知識・技能＞

**【授業研究の視点】（校内研修との関わり）**

校内研修テーマ「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～学びを深める交流活動の工夫～」

○集団解決の場面において、地域で活躍する人のモデルを提示し、集団で交流したことは、地域の人々の様々な思いに気付く上で、有効であったか。

問題設定（5分）	自力解決①（5分）→集団解決①（15分）→自力解決②（10分）	価値の共有・振り返り（10分）
<p>① 問題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。</li> <li>T 前回の授業はどんなことを学習しましたか？</li> <li>S 探検した場所の人たちの仕事について、大きな紙にまとめました。</li> <li>T そうだね。私たちの見えないところでたくさん仕事がありましたね。</li> <li>T 働いている人たちの様子はどうでしたか。</li> <li>S 楽しかった。</li> <li>S 大変そうだった。</li> <li>T 大変なのに働いているのはどうしてだろう。</li> <li>S お金を稼ぐため。</li> <li>T それだけですか？</li> <li>S うーん。</li> <li>T 前、学習した山種記念吉井図書館で働く人たちは？</li> <li>S 来てくれる人に喜んでもらいたいという思いで頑張っていました。</li> <li>T みなさんが探検した場所の人たちの思いはどうでしょうか。</li> <li>S どんな思いで仕事をしているのだろう。</li> <li>S きっと、お客さんのことを思って頑張っているよ。</li> <li>S 聞かなかったなあ。</li> <li>T 今日はどのような、めあてで学習したいですか？</li> <li>S 吉井町の人が、どのような思いで、頑張っているのかを考えたいな。</li> </ul> <p>㊦ よしい町ではたらく人々の思いを考えよう。</p>	<p>② 自力解決①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人が、ワークシートの吹き出しに、探検先の人々が思っていることを想像して書く。</li> <li>T 自分たちの探検先の人たちが何を思って仕事をしているかを、ワークシートの吹き出しに書きましよう。</li> </ul> <p>③ 集団解決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが探検していない場所で活躍する人々の写真や動画をタブレットの画面共有で見せながら、その人の思いを対話的に考えていく。</li> <li>T 注目してください。この写真はどなたですか？</li> <li>S 〇〇で働いている人だ。笑顔だね。</li> <li>T ではこちらの写真は？</li> <li>S うわ。とっても疲れている。大変そう。</li> <li>T どうして、大変そうなのですか？</li> <li>S 朝早くから起きて、大変な仕事をしているから。</li> <li>T どうして大変な仕事をするのですか？疲れてしまいますよね。</li> <li>S お客さんに喜んでもらったり、素敵な商品を作ったりするためです。</li> <li>T では、この動画を観てみましょう。</li> <li>S やっぱ、お客様に喜んでもらったり、素敵な商品を作ったりする気持ちがあるから、がんばれるのだね。</li> <li>T みなさんの探検先の人たちも、こんな表情をして苦労しているのですか？</li> <li>S していると思う。</li> </ul> <p>④ 自力解決②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人が、もう一度、ワークシートの吹き出しに思いを想像して書く。</li> </ul>	<p>⑤ 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを記入する。</li> <li>T 振り返りに、今日の学習で分かったことや、次回、どのようなことを学習していきたいかを、記入しましょう。</li> <li>・タブレットを使って、本時の振り返りを行う。</li> <li>T ワークシートを写真に撮って提出箱に出してください。</li> <li>S 自分たちが探検した場所の人々が、どのような気持ちで頑張っているのか聞きたいです。</li> <li>S もしかしたら、自分の探検先の人々も辛いことがたくさんあるかもしれないと聞きたくありません。</li> <li>S 自分が探検した〇〇の人たちも、お客さんが喜ぶ姿を見たいのかなと思いました。聞いてみたいです。</li> </ul>
<p><b>【指導上の留意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二度目の町探検で出会った人々について、子どもたちがまとめたものを、教室に掲示しておき、前時までの学習を想起できるようにする。</li> <li>・児童のつぶやきや発言を基に、児童の思いや願いを踏まえて学習のめあてを設定する。</li> </ul>	<p><b>【指導上の留意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々の思いを考え、地域で活躍する人々の苦労や思いに迫る動画や写真を提示することで、吉井町の人たちの様々な思いがあることに気付くことができるようにする。</li> <li>・互いの対話の中で、児童が気付きを自覚したり、新たなことに気付いたり、気付きを関連付けたりすることができるような言葉がけを行う。</li> <li>・自力解決②で、児童が書いた吹き出しを、ワークシートに貼らせることで、地域の人々の様々な思いに気付いたことを自覚させる。</li> </ul>	<p><b>【指導上の留意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの提出箱で、今日気付いたこと確認する中で、気付きを自覚することができるようにする。</li> <li>・タブレットの提出箱で、思いや願いを共有することで、次時への意欲に繋がられるようにする。</li> </ul>

総合的な学習の時間学習指導案 5年 「広げよう、伝えよう多胡碑の魅力」 5年1組 指導者 松井 元樹

I 単元の目標

単元の目標	身に付けさせる資質・能力
<p>○「多胡碑」を核として、自分の住む地域の歴史や産業、文化財について調べ、拓本や碑文ラリーを体験し、PRする活動を通して、地域と自分の在り方について考えることができる。</p>	<p><b>【知識及び技能】</b> ○多胡碑を中心とした吉井町の歴史や産業、文化財について調べ、拓本や碑文ラリーを体験することで自分なりに解釈したり、探究したりするための知識や技能を習得することができる。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b> ○多胡碑の魅力をPRすることに対して、吉井町のために自分ができることという視点をもとに、課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</p> <p><b>【学びに向かう力・人間性等】</b> ○多胡碑を紹介する資料やPR動画をまとめ、吉井小の児童や吉井町で暮らす人、吉井町を訪れる人に発信することを通して、自分も地域に住む一員であることの認識を高めようとする。</p>

II 児童の実態と指導方針

児童の実態	指導方針
<p><b>【知識及び技能】</b> 多胡碑の存在は知っているものの、どれほどの魅力や価値があるのかについて知らない児童が多く、多胡碑記念館に行ったことがある児童もクラスの3分の1程度であった。「地域学習」については、1年生で通学路探検、2年生で町探検を生活科で行った。3年生ではテーマを「吉井町の産業」とし、吉井町の特産品であるしいたけやきゅうりについて、4年生ではテーマを「吉井町の歴史」とし、吉井かるたに出てくる火打ち金や文化財についての調べ学習と発表を行った。タブレットについては、今年度から導入され各教科で活用している。主に資料の提出や閲覧、ドリル学習で活用する場面が多いが、困ったときには得意な児童が周りに教えたり、協働したりする場面が見られる。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b> 国語科や社会科の学習を軸にして、集めた情報の共通点や、相違点に着目して比較をしたり、分類や関係付けをしたりという活動を行ってきたため、必要な情報を取捨選択できる児童は多い。動画編集は初めてであるが、ほとんどの児童がYou tube等で動画を見ているため、構成や効果についての認識はある。キャッチコピーについては、国語の「図書せいせん会しよう」で、図書を紹介する際に学習している。話し合い活動については、自分の意見を積極的に言おうとする児童は多いが、根拠を明確にして話している児童は少ない。分からないことに対しては積極的に質問し、また、互いに聞き、教え合うことで、理解を深めようとする児童も多く見られる。</p> <p><b>【学びに向かう力・人間性等】</b> 学習のめあてや目標に向かって意欲的な児童が多く、資料の作成や修正にもねばり強く取り組むことができる。地域学習を通して、地域と自分の在り方について考える意識は低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入では、多胡碑を難しいものと捉えないよう、上野三碑かるたに取り組んだり、多胡碑記念館で説明を聞き、拓本や碑文ラリーに取り組んだりするなど、体験的な活動を通して楽しく学習しながら多胡碑についての理解を深めていく。</li> <li>・この学習では、タブレットを活用しながら学習を進めていく。タブレットのカメラで写真や動画を撮影したり、撮影したものを編集したりすることを通して、情報機器の活用能力や情報モラルの意識についても高めていく。</li> <li>・「情報の収集」では、実際に多胡碑記念館に行き、写真や動画を撮影する。編集する際に撮り直しを防いだり、たくさんの素材の中から選んだりできるよう、事前の絵コンテをもとに、同じ物でも角度や距離を変えるなど、様々なパターンで撮影するようにする。</li> <li>・多胡碑のPR動画を作成する際には、より魅力的なものになるよう、NHK for schoolの「しまった！情報活用スキルアップ」のポイントだけでなく、国語の意見文で学習した頭括型、尾括型、総括型についてもふれる。また、キャッチコピーも考えさせる。</li> <li>・話し合い活動では、活動の時間を十分に確保するとともに話し合いの視点を示し、それをしっかりと意識させることで、対話的で深い学びにつながるような、効果的な話し合いができるようにする。</li> <li>・多胡碑の魅力を発信するPR動画を作成していく中で、協働しながら他者と関わり、成果を共有することは学級集団や社会の一員としての自己有用感の実感や、協働性の向上に有効であると考ええる。</li> <li>・多胡碑の探究や魅力の発信を通して、地域と自分のつながりや吉井町のすばらしさを実感することで、自分たちも地域に住む一員であり、吉井町の発展のために自分ができることを認識していく。</li> </ul>

III 評価基準

ア【知識・技能】

○多胡碑を中心とした吉井町の歴史や産業、文化財について調べ、自分なりに解釈したり、探究したりするための知識や技能を習得している。

イ【思考・判断・表現】

○多胡碑の魅力をPRすることに対して、吉井町のために自分ができることという視点をもとに、課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。

ウ【主体的に学習に取り組む態度】

○多胡碑を核とした地域の文化財の魅力をPRする動画をまとめ、吉井町に暮らす人や吉井町を訪れる人に発信することを通して、自分たちも地域に住む一員であることの認識を高めようとしている。

## IV 単元構想

吉井小学校 5年 総合的な学習の時間 「広げよう、伝えよう多胡碑の魅力」			指導期間:4月～11月		指導時数 35/70時間	
単元の目標			○「多胡碑」を核として、自分たちの住む地域の歴史や文化財について調べ、拓本や碑文ラリーを体験し、PRする活動を通して、地域と自分の在り方について考えることができる。			
過程	月	時間	【小テーマ】 学習活動のねらい	○ 主な学習活動	●指導上の留意点	◇指導に生かす評価 ◆記録に残す評価 (評価の観点) 【方法】
10	10	21	【課題の設定③】 ○多胡碑のすばらしさをより多くの人に知ってもらうための、PR動画作成のポイントを確認する。	○NHK for schoolの「しまった！情報活用スキルアップ」を視聴し、PR動画作成のポイントを確認する。	●NHK for schoolの「しまった！情報活用スキルアップ」のポイントだけでなく、国語の意見文で学習した頭括型、尾括型、総括型についてもふれる。 ●PR動画作成に当たって、必要なグループはアンケートやインタビューも行うことを選択肢として示す。 ●事前に学活等で、ネットリテラシー向上動画を視聴し、ICTの活用やインターネットの活用についての注意事項を学習しておく。	◇動画作成のポイントを理解し、まとめている。 (知)【ワークシート】
		22	【情報の収集③】 ○伝えたいことがしっかりと伝わるように、PR動画作成のための絵コンテを決定する。	○PR動画作成のための絵コンテを、グループで話し合って完成させる。	●PR動画の目的は、「多胡碑のすばらしさをより多くの人に知ってもらうため」と「より多くの人に多胡碑記念館に来てもらうことであることを確認する。 ●動画は1分程度とし、ねらいや見る人が分かるようにという視点で絵コンテを考え確認し合う。 ●グループでPR動画のテーマを決める際には、ブラインドチャートを活用し、ここで話し合った考えをグループ全体の考えとして高めたり、焦点化させたりする。	◇友達の見意見を整理して、より効果的な表現方法に改善している。 (思)【ワークシート】
		24	○多胡碑記念館に行き、動画編集のための素材を集める。	○多胡碑記念館に行き、写真や動画を撮影する。	●写真も動画も1つだけでなく、角度や方向、距離を変えていくつか撮っておくよう伝える。 ●一般の来館者もいることを伝え、撮影時に映り込まないように伝える。	◆絵コンテをもとに、様々な視点から写真や動画の撮影を行っている。 (知)【タブレットデータ】
		26	【整理・分析③】 ○グループごとにPR動画の意図がよりよく伝わるように編集する。	○iMovieを使用してPR動画を編集する。	●PR動画は個々で編集する。その中で、よりよくできたPR動画を中心としてグループのPR動画を編集する。その際全員のアイデアが動画に生かされるようにする。 ●写真や映像については「見やすく」、文字は「分かりやすく、短く」、音楽は「効果的に」を意識させる。	◇動画作成のポイントを意識して、まとめている。 (思)【iMovie】
		28	○他のグループの動画を視聴し、よりよい動画に仕上げるために、よかったことや改善点を伝える。	○他のグループの動画を視聴して、よかったことや改善点を記入したワークシートを記入し、ロイノートで各グループに提出する。	●動画の視聴する際には、代表グループの発表者に、「一番伝えたいことは何か」「見る人を引きつける工夫は何か」を発表させる。 ●アドバイスのについては、動画の技術に注目するのではなく、伝えたいことが伝わってくるかを中心に考えさせる。	◇伝えたいことをより効果的に伝えるためのアドバイスを考え、記入している。 (思)【ワークシート】
		30	○他のグループのPR動画を視聴し、修正点や改善案を交流することで、多胡碑のすばらしさがよりよく伝わるようにするための考えを深める。	○他のグループの動画を視聴し、よりよい動画にするための修正点や改善案を交流する。	●アドバイスの1時間目は、アドバイスの視点やポイントを確認しながら行うため、1班のみのアドバイスとし、2時間目以降は2班ずつアドバイスをやる。 ●伝えたい内容が含まれているか、内容がきちんと伝わるかという視点で動画を確認し合う。 ●話し合いは小グループで行うのではなく、クラス全体で行い、教師が司会をすることで、代表の班がアドバイスを聞いたり、質問したり、メモを取ったりすることがスムーズに行えるようにする。	◇PR動画を、見る人に伝えたいことがきちんと伝わるかということを意識してアドバイスをしたり、検討会議で話し合ったりしている。 (思)【観察・話し合い】
		33	○他のグループからももらった意見をもとに、伝えたいことが効果的に伝わる動画になるよう修正する。	○他のグループからももらった意見をもとに、よりよい動画になるよう修正する。	●前時までの話し合いをもとに、自分たちが伝えたいことが、効果的に視聴者に伝わるかを中心に考えて、動画を修正する。	◇友達からの意見をもとに、グループで話し合いながらよりよい動画に仕上げようとしている。 (思)【観察・発言】
		34	○完成した動画をクラスで見合い、感想を交流することでPR動画作成の成果を自覚し、地域貢献の達成感を味わう。	○完成した動画をクラスで見合い、修正前の動画と比較して成果を確認する。	●多胡碑記念館の職員の方や保護者にも参加してもらい今までの成果を自覚できるように、動画を見た感想を聞ける場を設ける。	◆PR動画による地域貢献への成果や感想を記述している。 (思)【ワークシート】
		35	【まとめ・表現③】 ○単元全体の学習を振り返り、吉井町のために自分ができることを考えることで、地域貢献の意識を高める。	○今までの活動を振り返り、それぞれの取り組みをもとに地域への思いをまとめる。	●この単元の感想だけでなく、学習を通して気付いた吉井町のすばらしさや、吉井町のために自分たちができることをワークシートにまとめる。	◆これまでの授業を振り返り、吉井町と自分たちができることについての考えをまとめている。 (態)【ワークシート】
		11	11	まとめ		

## V 本時の学習

**【ねらい】 他のグループのPR動画を視聴し、修正点や改善案を交流することで、多胡碑のすばらしさがよりよく伝わるようにするための考えを深める。**

<p>多胡碑の魅力やすばらしさを伝えるPR動画をつくろう</p> <p>よりよく伝えるためのポイント</p> <p>目的…多胡碑のすばらしさをより多くの人に知ってもらう。 内容…見る人がよく分かり、多胡碑を訪れたいくなるように工夫する。</p> <p>①映像…見やすくなっているか ②文字…分かりやすく、短くなっているか（キャッチフレーズ） ③音楽…伝えたいことや内容に合っているか ④編集…よりよく伝わるような工夫がされているか</p> <p>振り返り</p> <p>今日は、とてもよくできたと思います。なぜなら、〇〇さんの◇◇という方法でPR動画を修正すれば、より多胡碑のすばらしさが伝わり、多胡碑を訪れる人が増えると思ったからです。会議の中では△△という新たな気づきがありました。6班だけでなく自分のグループの動画にも生かせそうです。</p> <p>今日の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>PR動画の説明を聞き、視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「一番伝えたいことは何か」</li> <li>「よりよく伝えるための工夫は何か」</li> </ul> </li> <li>PR動画のよい点と改善点を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>一番伝えたいことが伝わってくるか</li> <li>効果的な方法か、もっとよい方法はないか</li> <li>見方を変える、ひろげてみる</li> </ul> </li> <li>振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>検討会議を通して学んだこと、気づいたこと</li> </ul> </li> </ol>	<p>【身に付けさせたいこと】</p> <p>○今までの学習を生かし、多胡碑のすばらしさがPR動画を見た人によりよく伝わるように、PR動画の修正点や改善案を考えることができる。</p> <p>【表れてほしい児童の姿】（評価場面）</p> <p>○見る人がよく分かり、多胡碑を訪れたいくなることを意識してアドバイスをしたり、検討会議で話し合ったりすることで自分たちのPR動画を客観的に捉え直し、よりよいものにしようとしている。（観察・話し合い）【思・判・表】</p> <p>【授業研究の視点】（校内研修との関わり）</p> <p>校内研修テーマ「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～学びを深める交流活動の工夫～」</p> <p>○PR動画を修正する場面において、動画を通して伝えたいことや改善のポイントを明確にして検討し合ったことは、対話的な学びを促し、自分やグループの考えを深めるために有効であったか。</p>	
<p><b>課題設定（7分）</b></p>	<p><b>集団解決（30分）</b></p>	<p><b>まとめ（8分）</b></p>
<p>① 導入</p> <p>・学習の流れを確認し、本時のめあてを提示する。</p> <p>T：前回、1～5班のPR動画を見て、検討会議を行いました。今日は6班と7班について行います。6班と7班の提出箱にあるみんなのアドバイスを見てみましょう。</p> <p>T：再度PR動画を見る前に、もう一度よかった点と改善点についての視点を確認しておきましょう。</p> <p>T：それでは、今日のめあての確認をしましょう。6、7班のPR動画について検討する時間ですが…</p> <p>S：前回の検討会議で、相手意識をもって色々な角度から考えることが大事だということがわかったので、相手意識や色々な角度を入れたいです。</p> <p>⑥ 6、7班のPR動画の伝えたいことがよりよく伝わるように、相手意識をもち、色々な角度から検討しよう。</p>	<p>② 集団解決1 ・6班のPR動画の説明を聞き、よいところや改善点を検討する。（15分）</p> <p>S1：私たちの班は、碑文ラリーの楽しさを伝えたいと思います。そのために、動画を2倍速で流すように編集し、展開を速くしました。動画を見てアドバイスをお願いします。</p> <p>T：6班に質問がある人はいますか？</p> <p>S2：なぜ2倍速で流す編集がよいと思ったのですか。</p> <p>S1：碑文ラリーのコースを全部見てほしかったからです。</p> <p>S2：映像が速く流れていると、「頭と体を使って碑文を覚えよう」というキャッチフレーズがよく読めなくてもいいと思います。</p> <p>T：早送りよりもスライドショーにした方がよいと書いている人がいますので、理由を聞いてみましょう。</p> <p>S3：早送りはリズムが一定だけど、スライドショーは見せたい部分の時間を長くすることができるからです。アップテンポな音楽を入れれば楽しさも伝わると思います。</p> <p>T：よいところに「2倍速の編集が効果的」と書いている人もいますが、どうでしょう。</p> <p>S4：人の視線で速く動いていると、自分も参加しているような気持ちになるから、碑文ラリーの楽しさが伝わると思います。</p> <p>T：動画を2倍速にすることを効果的という人と、課題と考える人がいますが、6班の人たちはどう思いましたか。</p> <p>S1：スライドショーのパターンを作るのもいいし、2倍速の動画とスライドショーを組み合わせるのも面白いかもしれないと思いました。</p> <p>③ 集団解決2 ・7班のPR動画の説明を聞き、よいところや改善点を検討する。（15分）</p>	<p>⑥学習のまとめ</p> <p>・本時の活動を振り返り、次時へのつなぎとする。</p> <p>T：今日の検討会議の振り返りを書いてください。</p> <p>S：今日の検討会議はとてもよくできたと思います。2倍速の編集もスライドショーの編集もどちらも効果的だと書いている人がいて、人によって感じ方が違うところがおもしろかったです。〇〇さんの、スライドショーにしてアップテンポな音楽を入れるという修正案もすごいと思いました。相手意識をもって、相手のことをよく考えた動画に仕上げるのが大切なのだと思います。今日のアドバイスは、自分の班の動画にも生かせそうなので、次回の修正のときに提案してみようと思います。どんな動画になるか楽しみです。</p> <p>T：次回は今日話し合った修正案をもとに動画を修正しましょう。できあがった動画は多胡碑記念館の方や保護者のみなさんにも見てもらい、感想を聞きたいと思います。</p>
<p>【指導上の留意事項】</p> <p>●事前に書いたアドバイスを確認したり、友達の意見を見たりすることで、本時の見通しをもつ。</p> <p>●めあて設定の場面では、児童の思いや前時の学びを踏まえた学習課題を設定する。</p>	<p>【指導上の留意事項】</p> <p>●代表グループの発表者に、「一番伝えたいことは何か」「よりよく伝えるための工夫は何か」を発表させたあとに、作成したPR動画をもう一度みんなで視聴して確認する。</p> <p>●話し合いは小グループで行うのではなくクラス全体で行い、教師が司会をすることで、代表の班がアドバイスを聞いたり、質問をしたり、メモを取ったりすることがスムーズに行えるようにする。</p>	<p>【指導上の留意事項】</p> <p>●今日の交流から、どんな学びや新たな気づきがあったかについて振り返るようにする。</p> <p>●考えを深めることができた児童を中心に、振り返りの発表を行う。</p>

## IV 研究のまとめ

### 1 成果

#### (1) 全体計画、年間指導計画の見直し

- 地域教材を整理したことによって、縦の流れが体系的にわかるようになった。学びがその学年のみになるのではなく、前学年で学んだことを生かして、学習がつながるようになった。
- 地域学習を行うことで、児童が地域に興味をもったり、目を向けたりするようになり、郷土愛や地域に貢献しようとする意識が向上した。
- 吉井小として、全学年を貫いた計画ができた。

#### (2) 単元計画の見直し

- 単なる調べ学習やまとめでなく、児童自身が課題を見だし、解決に向かう活動を発展的に繰り返す、探究的な学習活動になった。
- 一つの気付きから、次の活動につながるような内容となっている。さらに、そのことをもとに、次の活動につなげていけるようになった。
- 地域の人材活用につながった。

#### (3) 学びを深める交流活動の工夫

- タブレットの活用により、一度にたくさんの意見や考えを共有、比較することができるようになった。
- シンキングツールを使用することで、考えや学びの広がりや深まりにつながった。
- 話し合いの視点やポイントを示すことで、目的や意図が焦点化され、考えや学びの広がりや深まりにつながった。
- タブレットの積極的活用等、交流活動を工夫しようという意識が高まった。
- 調べ学習にあたり、吉井地区の人材活用を取り入れた。「調べる」方法が深まり、「聞く」「インタビューする」ことで、深い学びにつなげることができた。

### 2 課題

#### (1) 全体計画、年間指導計画の見直し

- 全体計画や年間指導計画が整備されつつあるが、実施してみてもまだまだ改善すべきことがある。年度末に確認し、次年度につなげていく。

#### (2) 単元計画の見直し

- 地域学習には教科書がない。そのため、参考文献やインターネットを活用するが、児童用に書かれたものではないので、その内容の理解が難しい。それを改善するために、施設見学や学芸員に説明してもらうことで学習するが、疑問点がでたときにすぐに解決できない。
- 学年を担当する教員が、吉井町に詳しくない場合や、該当学年を担当したことがない場合、指導の内容や質の維持が困難である。教科書や指導書がない中で、教材研究や学習内容の引き継ぎが難しいので、学校として職員全体に研修が必要になる。

#### (3) 学びを深める交流活動の工夫

- シンキングツールの活用、学年段階での系統性について、どの学年でどのツールを使うか計画を立てた方がよい。
- どのような場面でどのように交流すると学びが深まるか今後も検証していく。有効と思われる手立て等職員で共有し、今後を生かしていく。